

香我美町埋蔵文化財発掘調査報告書第8集

幅 山 遺 跡

—山南地区基幹農道整備事業に伴う発掘調査報告書—

1999.3

香我美町教育委員会

幅 山 遺 跡

1999.3

香我美町教育委員会



調査区全景

序

この度、山南地区基幹農道整備事業に伴い幅山遺跡の発掘調査を実施したところ弥生時代の遺構・遺物が多く発見されました。

弥生後期の竪穴住居址は、町内の先史・古代の集落景観を復元する上で貴重な資料となります。

遺跡は大地に刻み込まれた歴史そのものであり、私たちの祖先の偽らざる営みの軌跡を今日に伝えるかけがえのない遺産であります。

本書は、幅山遺跡の調査によって明らかになった、香我美町の歴史を広く知って頂き斯学の向上をはかると共に、埋蔵文化財に対する一層のご理解を頂きたいことを願って刊行するものです。

最後に、調査にあたってご指導を頂きました高知県教育委員会・高知県立埋蔵文化財センター並びに中央東耕地事務所・地権者等、調査にご協力頂きました方々に、心からお礼申し上げます。

平成11年3月

香我美町教育長 中村 正尚

例 言

1. 本書は、平成10年度山南地区基幹農道整備事業に伴う幅山遺跡の発掘調査報告書である。
2. 幅山遺跡は、高知県香美郡香我美町上分河内にある。
3. 調査対象面積1,851.93㎡、調査面積520㎡。調査期間は平成10年8月17日から10月6日までである。
4. 発掘調査は、高知県からの委託を受けて香我美町教育委員会が行なった。調査体制は下記のとおりである。
調査員 岡本 修（香我美町教育委員会）
調査指導 出原恵三（高知県立埋蔵文化財センター）
5. 遺物整理及び報告書の作成は、平成10年8月から平成11年3月まで行なった。
6. 本書の執筆・編集は、県立埋蔵文化財センターの出原恵三氏の指導で町教育委員会の岡本修が行なった。
7. 現場作業においては、貞岡重道・佐野宣重・佐々木竜男・藤村武重・石川弘巳氏の協力を得た。整理作業においては、入野三千子氏他の協力を得た。
8. 当遺跡出土資料は、香我美町教育委員会が保管している。遺跡の略号は98-14KHである。

本文目次

第 I 章	歴史・地理的環境	1
第 II 章	調査に至る経過と調査の方法	3
第 III 章	調査の成果	6
第 IV 章	まとめ	19

図版目次

Fig 1.	幅山遺跡と周辺の遺跡分布図	2
Fig 2.	調査区位置図	4
Fig 3.	調査区位置図	5
Fig 4.	1区全体図・セクション図	7
Fig 5.	ST-1遺構平面図・セクション図・エレベーション図・出土遺物実測図	8
Fig 6.	ST-1出土遺物実測図	9
Fig 7.	ST-1出土遺物実測図	10
Fig 8.	ST-1出土遺物実測図	11
Fig 9.	2区全体図・セクション図	12
Fig10.	SK-1遺構平面図・エレベーション図・出土遺物実測図	12
Fig11.	3区全体図・セクション図	13
Fig12.	4区全体図・セクション図	14
Fig13.	ST-2遺構平面図・セクション図・エレベーション図・出土遺物実測図	15
Fig14.	ST-3遺構平面図・セクション図・エレベーション図・出土遺物実測図	17
Fig15.	4区出土遺物実測図	18

写真図版目次

- PL. 1 1区調査前（北北東から）
2区調査前（南から）
- PL. 2 3区調査前（北北東から）
4区調査前（北東から）
- PL. 3 ST-1（北東から）
ST-1完掘状況（南から）
- PL. 4 ST-1完掘状況（北西から）
1区完掘状況（北東から）
- PL. 5 ST-1遺物出土状況
同 上
- PL. 6 ST-1遺物出土状況
同 上
- PL. 7 ST-1遺物出土状況
同 上
- PL. 8 壺棺出土状況
同 上
- PL. 9 2区完掘状況（北から）
SK-1完掘状況
- PL. 10 3区完掘状況（南東から）
同 上（南から）
- PL. 11 4区完掘状況（南から）
同 上（北から）
- PL. 12 ST-2完掘状況（東から）
同 上（南から）
- PL. 13 ST-2中央ピット完掘状況
ST-2セクションベルト（北北東から）
- PL. 14 4区東壁セクション（西から）
同 上（同上）
- PL. 15 ST-3完掘状況（北から）
ST-3遺物出土状況
- PL. 16 ST-1・壺棺、ST-3出土土器
- PL. 17 ST-1、ST-3、4区包含層出土土器
- PL. 18 ST-1、SK-1、ST-2、ST-3出土の鉢
ST-1、ST-3出土の壺
- PL. 19 ST-1、ST-2、ST-3出土の甕
- PL. 20 石器
同上裏面

第I章 歴史・地理的環境

高知県は、北を四国山地に囲まれ南は太平洋に面し東西に長い海岸線をもっている。

その中央部に展開する高知平野は南四国最大の穀倉地帯であり、かつては二期作地帯として有名であったが、現在は施設園芸作物のビニールハウス栽培地域へと大きく変貌している。

高知平野とその周辺部には縄文時代から近世に至る多くの遺跡が立地しており、物部川下流域右岸の自然堤防上には、弥生時代と中世を中心とした拠点集落址である田村遺跡群が立地している。

幅山遺跡のある香美郡香我美町は南北に細長く占地を有しており、町の大部分は山林であるが東から山南川・香宗川・山北川が山間を縫うようにして流れ、十万付近で山南川が香宗川に合流し、更に野市町中ノ村で山北川が香宗川に合流している。十万付近から香宗川によって形成された沖積平野が広がり高知平野の東端部を占めている。南部は海岸沿いに砂丘が形成され現市街地となっているが、その北側は低地が広がっている。かつてのバックマーシュと考えられる。

幅山遺跡は、香美郡香我美町上分にあり山南川左岸を望む山地斜面に立地している。標高は20m前後で、田村遺跡群からは、物部川を隔てて東方約7km、現海岸線からは3kmの地点にある。

弥生時代の遺跡は、沖積平野や三河川流域の谷平野に散在する。前期は下分遠崎遺跡・十万遺跡・拝原遺跡を挙げる事ができる。三者共に前期新段階より開始される。

下分遠崎遺跡は1986年と1988年に調査が行われ、前期新段階から中期前葉に至る集落址であることが明らかとなった。竪穴住居址は検出し得なかったが4棟の掘立柱建物をはじめ多数の土坑・溝・柱穴等を検出することができた。最も注目すべき成果としては、県下初の木製品とともに多量の獣骨や炭化米・各種種子やカツオの脊椎骨が出土した。下分遠崎遺跡は比較的規模の大きな集落遺跡であると考えられるが、他の二遺跡は極めて小規模な遺跡であり独立した経営体であるとは考えられない。おそらく下分遠崎遺跡を核とした共同体を構成するものであろう。またこれらの三遺跡が共に中期前葉で終わり後半には続かない。中期後半になると統率されたように集落が低地から消え山上に上がる。後期になると再び平地に営まれるようになるが、沖積平野ではなく、河川の中流域の谷平野に営まれる例が多くなる。

古墳時代に入るとこれらの集落のほとんどは再び消滅し、後期になると鳴子・幅山などに小規模な円墳が築かれるが、遺跡数が少なく動向が把握できない。

奈良時代になると、十万遺跡には八世紀後半に属する掘立柱建物13棟が出現する。付近一帯は「大忍郷」として律令国家の地方行政組織に組み込まれていくが、この建物群は郡衙などの役所に出仕する豪族層の館として位置付けられる。

鎌倉時代に入ると先に挙げた三河川の流域は、小領主化への道を歩みはじめる。戦国期には、山北川・香宗川の中・上流域には20余りの山城が築かれ、現在も比較的良好な状態で残っている。



No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代
1	幅山遺跡	弥生	11	鳴子遺跡	古墳~古代	21	香宗我部城	中世
2	大崎山古墳	古墳	12	河内遺跡	〃	22	国吉城	〃
3	本村遺跡	弥生	13	鳴子古墳	古墳	23	十万遺跡	縄文~近世
4	安弘遺跡	〃	14	幅山古墳	〃	24	東十万城	中世
5	城山城	中世	15	拝原遺跡	縄文~中世	25	十万城	〃
6	福万城	〃	16	的場遺跡	弥生	26	徳善天皇古墳	古墳
7	前田城	〃	17	岡城	中世	27	徳王子古窯址群	古代
8	東曾我遺跡	弥生~中世	18	拝原城	〃	28	徳善城	中世
9	下分遠崎遺跡	弥生	19	稗地遺跡	〃	29	蛭野古墳	古墳
10	中城	中世	20	岩神城	〃	30	姫倉城	中世

Fig. 1 幅山遺跡と周辺の遺跡分布図

第Ⅱ章 調査に至る経過と調査の方法

1. 調査に至る経過

香我美町においては、昭和61年度より香宗川中流域の農地66haを対象とした山南地区県営圃場整備事業の開始などによって、町の基幹産業である農業の振興を図ってきた。しかし、山南地区北部においては、未だ狭い農道や農地が大半を占めており、合わせて、後継者不足により労働力の負担軽減が求められていたところである。

そこで、以前から県南国耕地事務所（現：中央東耕地事務所）によって県営山南地区基幹農道整備事業の導入が進められていたところである。

香我美町の遺跡の分布状況は、先の導入に伴う十万遺跡・下分遠崎遺跡・拝原遺跡の発掘の機会を得ることができ、先史時代以来今日まで、香我美町を築き上げてきた祖先の営みが、数多く判明してきた。遺跡の一つ一つは私たちの祖先が厳しい自然と戦いながら大地に刻み込んだ偽らざる、そしてまた二度と繰り返すことのない歴史である。

県営山南地区基幹農道整備事業対象地の中に幅山遺跡指定地が含まれているところから、香我美町教育委員会では事業に先だって平成10年3月に、事業対象地3,485.95㎡の中で、14グリット84㎡について試掘調査を実施した。その結果事業対象地南部において1～10グリットの地表下20cmから90cmの深さに遺構・遺物包含層が存在することを確認し得た。出土遺物は、弥生時代が主体を占めていた。

最終的に事業対象地南部1,851.93㎡について、記録保存のための発掘調査を実施することになった。調査は機材搬入など準備を整え、平成11年8月から開始した。

2. 調査の方法

調査対象地が南北に細長いため、南側から順次第1区から4区として実施していった。

第1区は東西8m・南北20mで面積約160㎡、第2区は東西8m・南北17mで面積約140㎡、第3区は東西3m・南北44mで面積約140㎡、第4区は東西5m南北16mで面積約80㎡である。

表土下約20cmから30cmを重機を使って掘り下げその後は人力で少しずつ掘り下げていった。調査区内を20分の1で平面実測を行い、包含層遺物の取上げ・遺構の検出については、公共座標に基づいて4mの方眼によって記録した。必要に応じてセクション図を作成した。

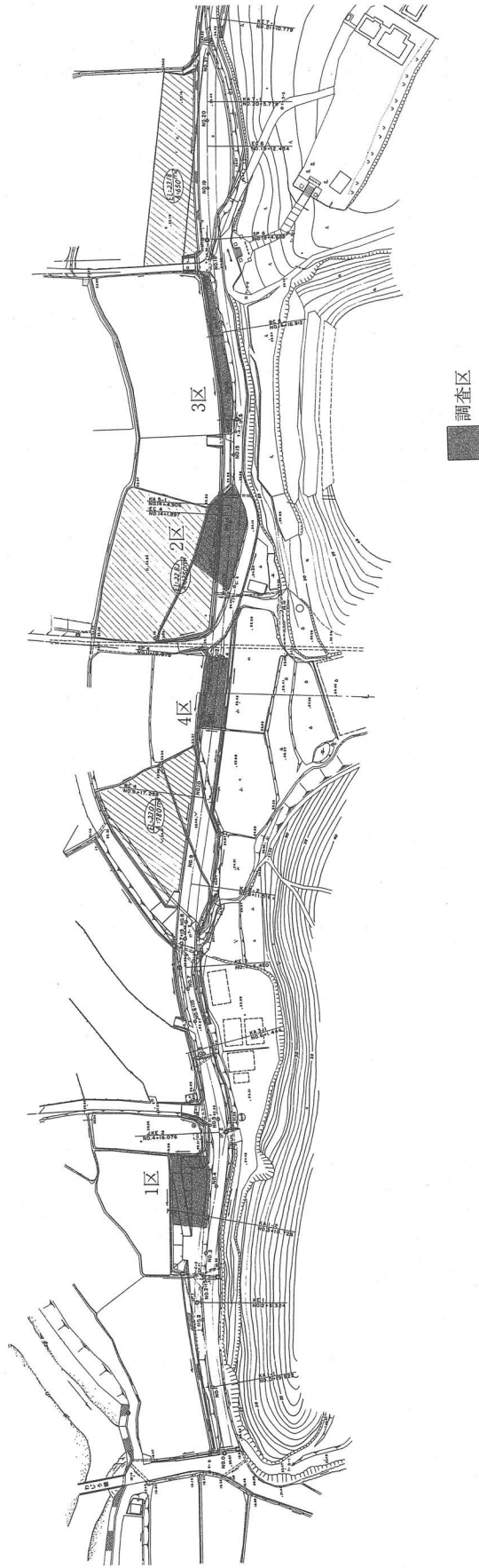


Fig.2 調査区位置図

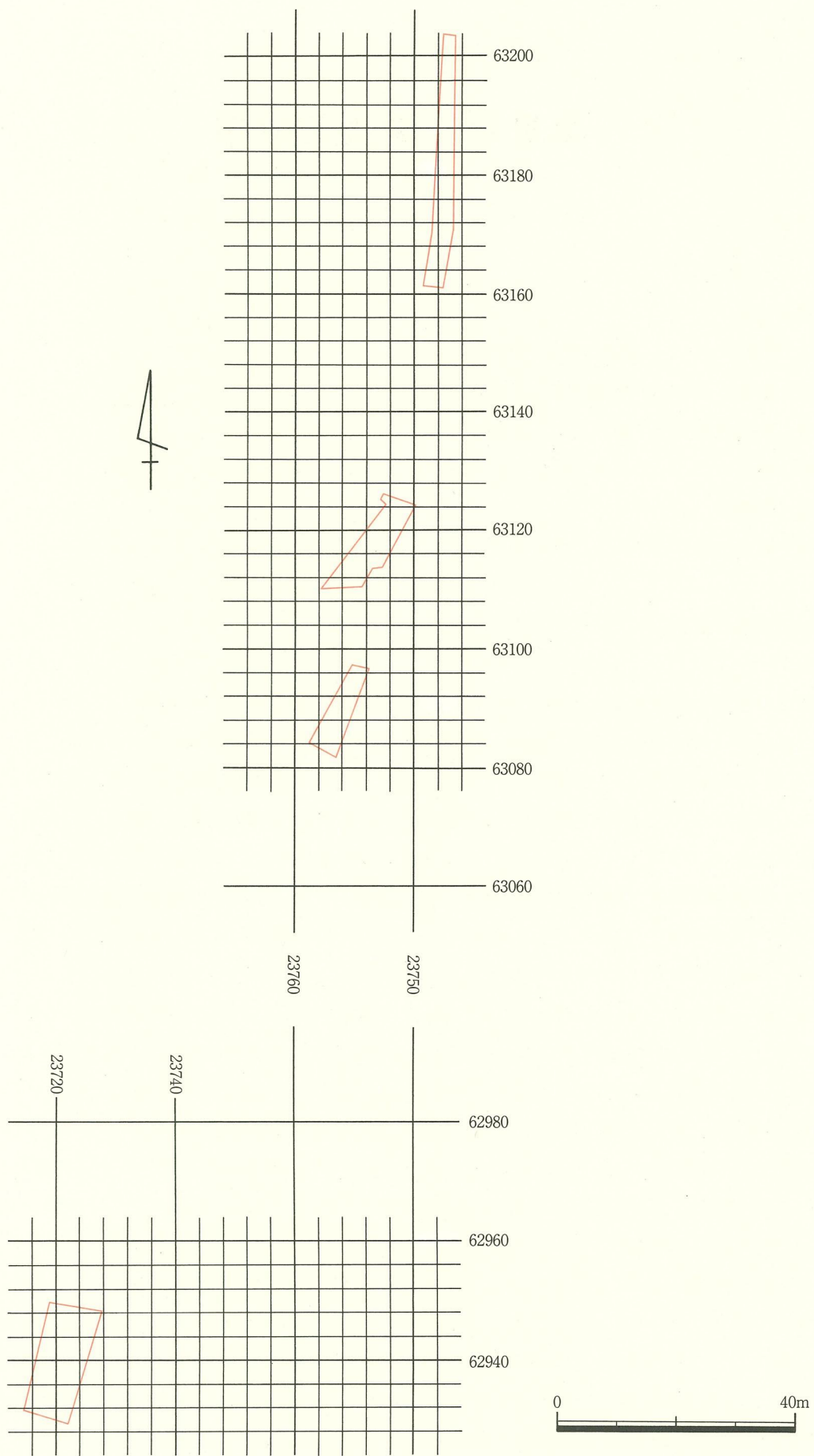


Fig. 3 調査区位置図

第Ⅲ章 調査の成果

1. 1区

(1) 基本層序

1区の層序について、調査区北壁について述べる。

V層：暗褐色粘質土で層厚は16cmを測る。

IV層：黒褐色粘質土で層厚は30cmを測る。弥生の遺物包含層

Ⅲ層：暗褐色シルトで黒褐色粘質土・音地を含。南端に一部堆積する。

Ⅱ層：暗褐色シルト

I層：表土。耕作土である。

(2) 検出遺構と遺物

ST-1

調査区の北方に位置する。円形プランを有し直径6.16m、推定面積30m²を測る。

残存状況は良好である。深さは約30cmを測る。埋土はⅢ層：灰黒色粘性土（音地をブロック状に含）、Ⅱ層：黒褐色粘性土（音地をブロック状に含）、I層：濃茶褐色粘性土である。中央ピットは床面中心部よりわずかに南に位置し、楕円形プランを有する。1.06×0.60m、深さ12cmを測り、断面は船底状をなす。中央ピットの埋土中には、炭化物が確認された。中央ピットの北隣に焼土が確認された。東側の壁側は、幅80cmの狭いテラス状になっている。主柱穴は位置関係からP1・2・3・4が想定されるが大きさ・深さともに不揃いである。柱間距離はP1-P4：3.2m、P4-P2：2.6m、P2-P3：2.4m、P3-P1：2.4mを測る。

遺物は壺、甕、鉢、叩石、石斧が埋土を中心に出土している。土器を口縁部の点数で見ると、甕33点、壺8点、鉢31点で、甕と鉢が大半を占めている。これらの土器の多くは、埋土中層より上層からの出土で、床面直上のものはほとんど見られない。しかし、埋土上～中層出土の鉢（32・33・36・39・40・44・46）や甕（20・25）は、完形品または復元完形品となるものであり、ST1が埋没する過程で、自然に流れ込んだものとは考えられない。ST1の廃棄に際して何らかの行動がなされ、意図的に置かれたことが十分に考えられる。この他P1～P4から弥生土器細片が、中央ピットからは壺（2）・鉢（49）や土器細片が出土している。

次に土器の特徴について見ると、壺は、ラッパ状に外反する口縁部を持つもの（1・2・6）や二重口縁を有するもの（3・4）、直口壺（5）がある。これらのうち前二者については櫛描波状文が見られる。甕は、くの字状口縁を有し外面全面に叩きが施されているタイプのみである。叩目の中には、（18）のようにきわめて幅広の筋目を有するものがある。底部は、23点中丸底が2点で他は平底である。外面には煤が付着するものが多い。胴部内面は、刷毛及び指ナデ調整がほとんどであるが、1例のみヘラ削りを施すものがある。鉢は、口径10cm前後の小型のもの、15cm前後の中型のもの、20cm

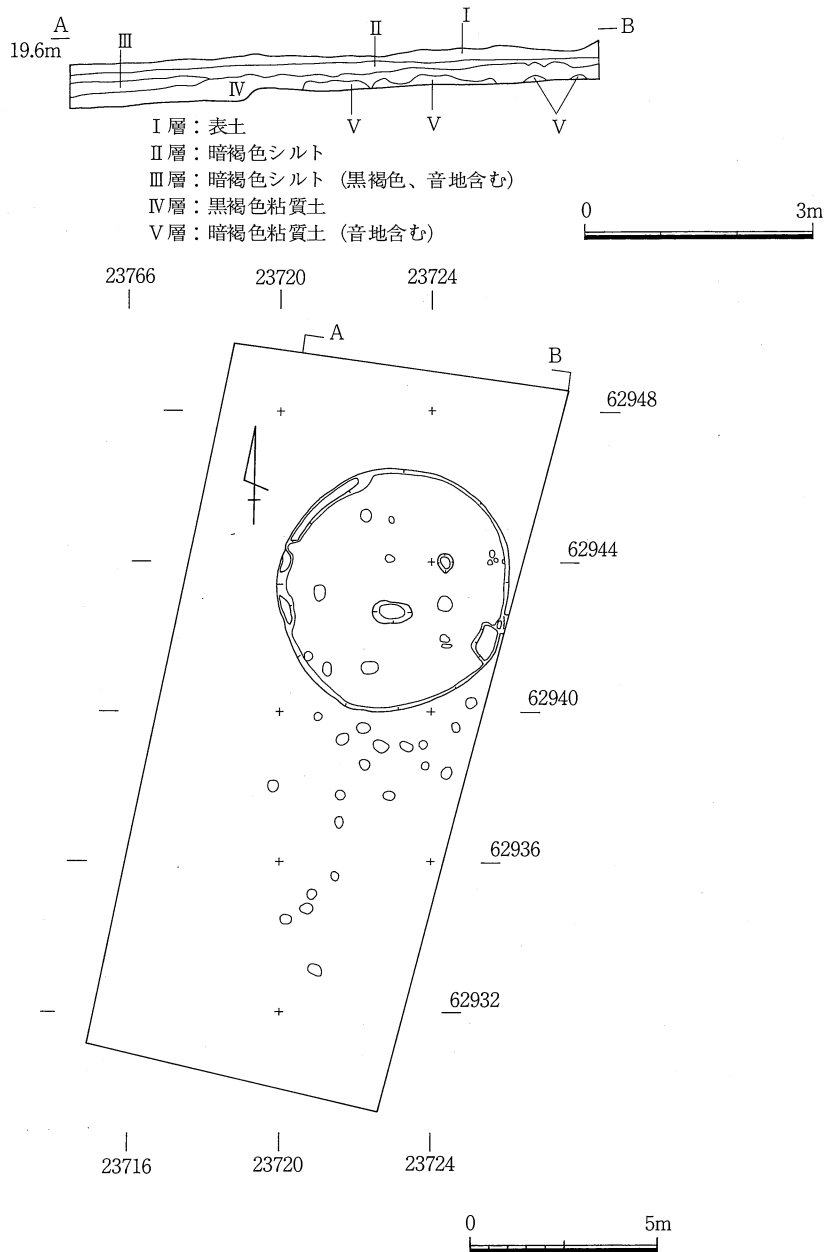


Fig. 4 1区全体図・セクション図

以上の大型のものがある。外面は叩き痕跡を残すものが多いが、刷毛やナデによって消されているものも一定量見られる。底部の形態は丸底、平底、尖底があり丸底が多く見られる。

石器は打製石包丁 (55)、叩石 (57)、すり石 (56・58) が出土している。このうち (56) は両主面中央部に水銀朱の付着が見られる。

ST1は出土遺物から弥生時代後期終末に属する。

壺棺

なお、ST1と切り合っているがST1との前後関係や土坑の掘り方は不明である。

壺棺 (24) は、上胴部及び口縁部を欠くが器高、胴部最大径40cm前を測るものと考えられる。外面は叩き成形後刷毛調整、内面中位は刷毛調整、下胴部ナデ調整、丸底である。

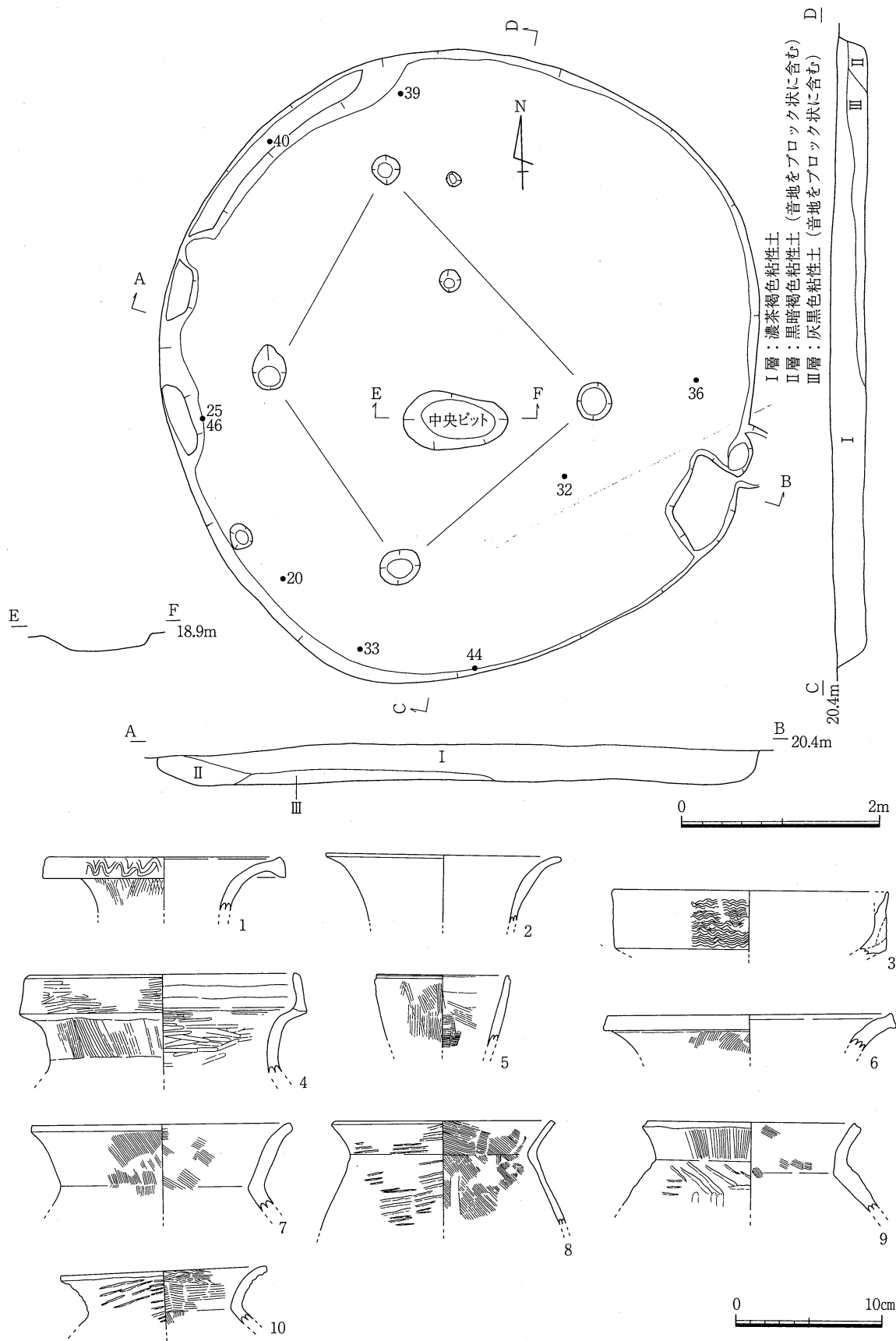


Fig. 5 ST-1遺構平面図・セクション図・エレベーション図・出土遺物実測図

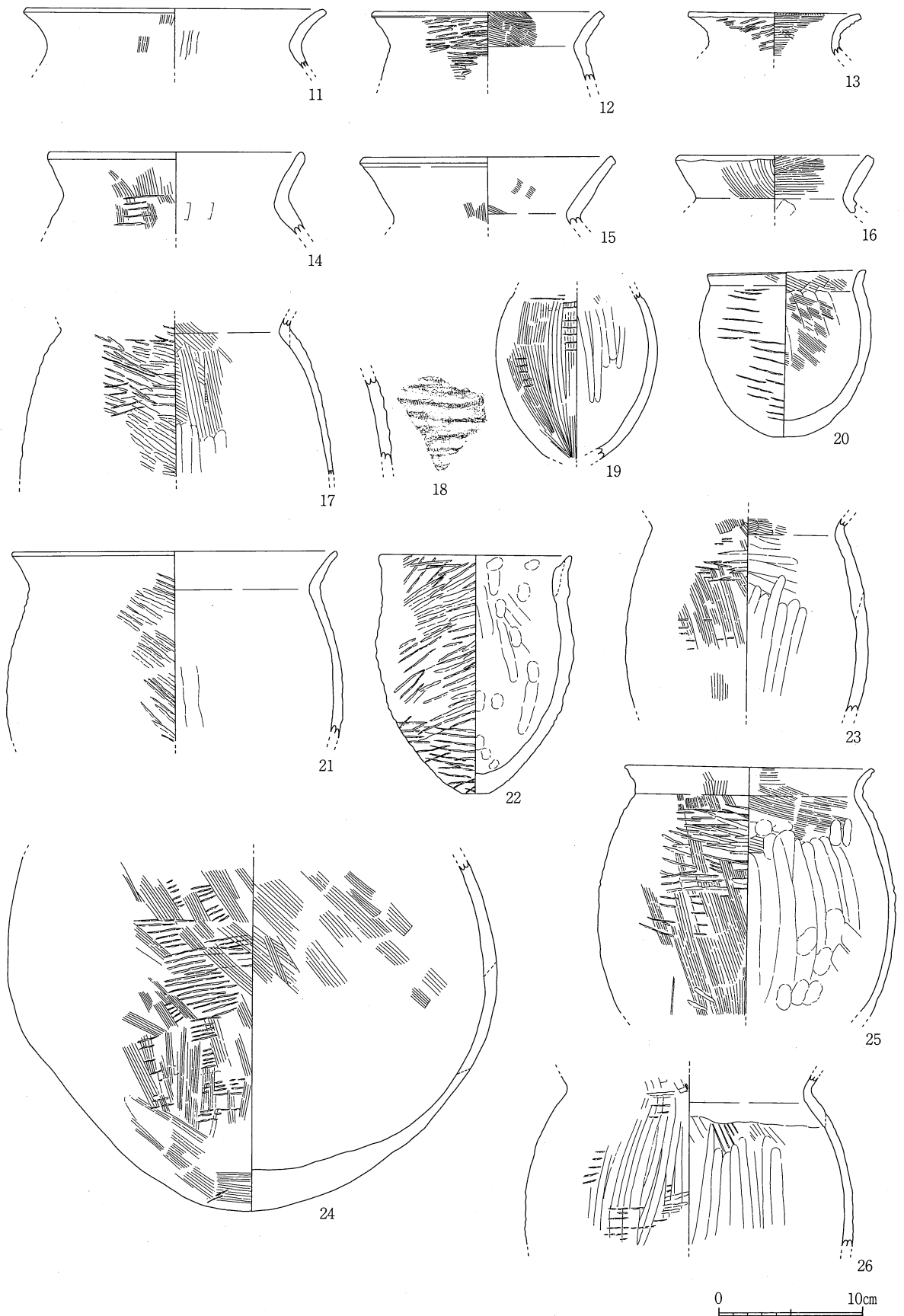


Fig. 6 ST-1 出土遺物実測図

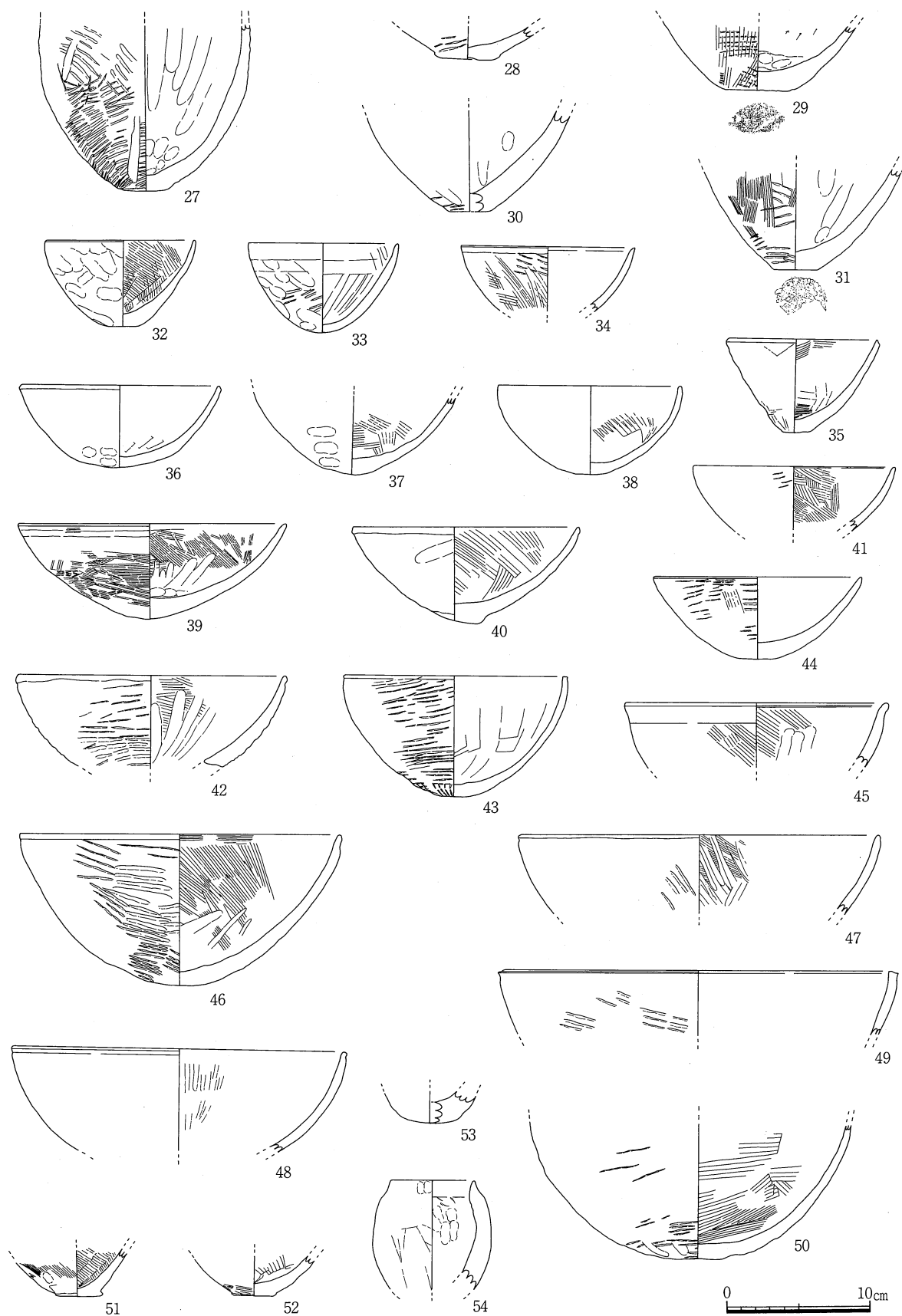


Fig.7 ST-1 出土遺物実測図

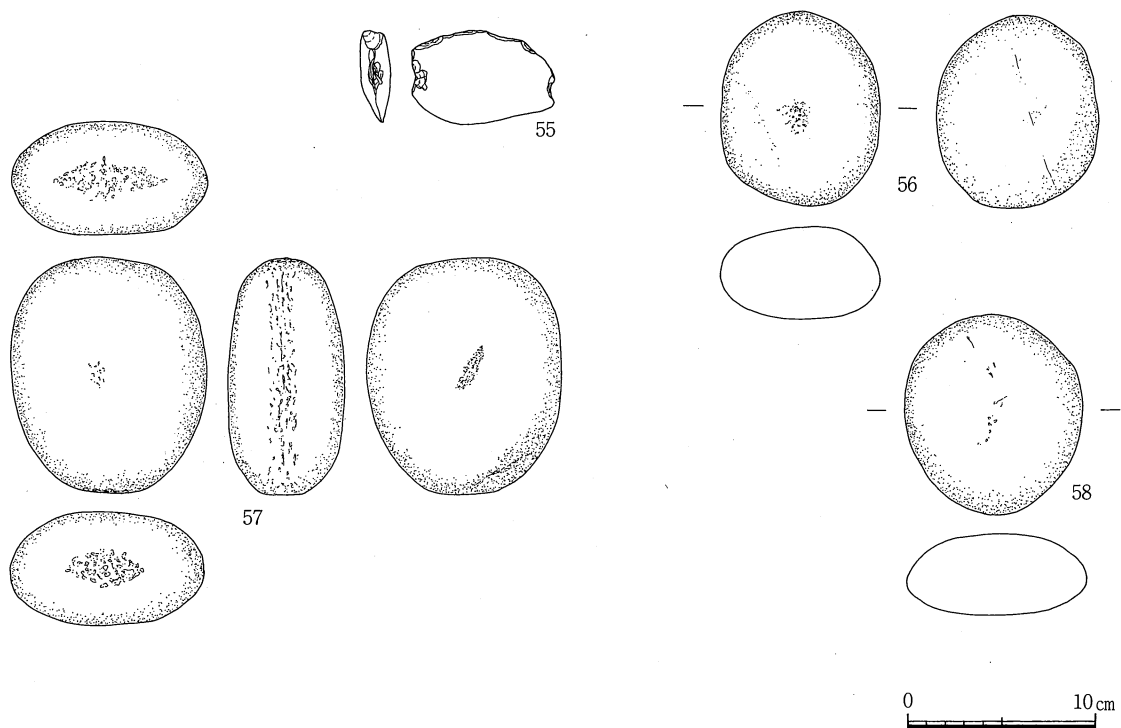


Fig. 8 ST-1 出土遺物実測図

2. 2区

(1) 基本層序

2区の層序について、調査区北壁について述べる。

V層：暗褐色粘質土で層厚は12cmを測る。

IV層：黄茶色粘質土で層厚は12cmを測る。東側に帯状に認められる。

III層：黒褐色粘質土で層厚は40cmを測る。遺物包含層である。

II層：灰褐色粘質土で層厚は10cm～50cmを測る。東から西に向かって層厚を増している。

I層：表土。耕作土である。

(2) 検出遺構と遺物

SK-1

調査区の北方西側に位置する。円形で直径72cm、深さは約47cmを測る。

遺物は、壺 (59)、甕 (60)、鉢 (61) が出土している。

次に土器の特徴について見ると壺はラップ状に外反する口縁部を持つ。鉢は口径15cm前後の中型のものである。

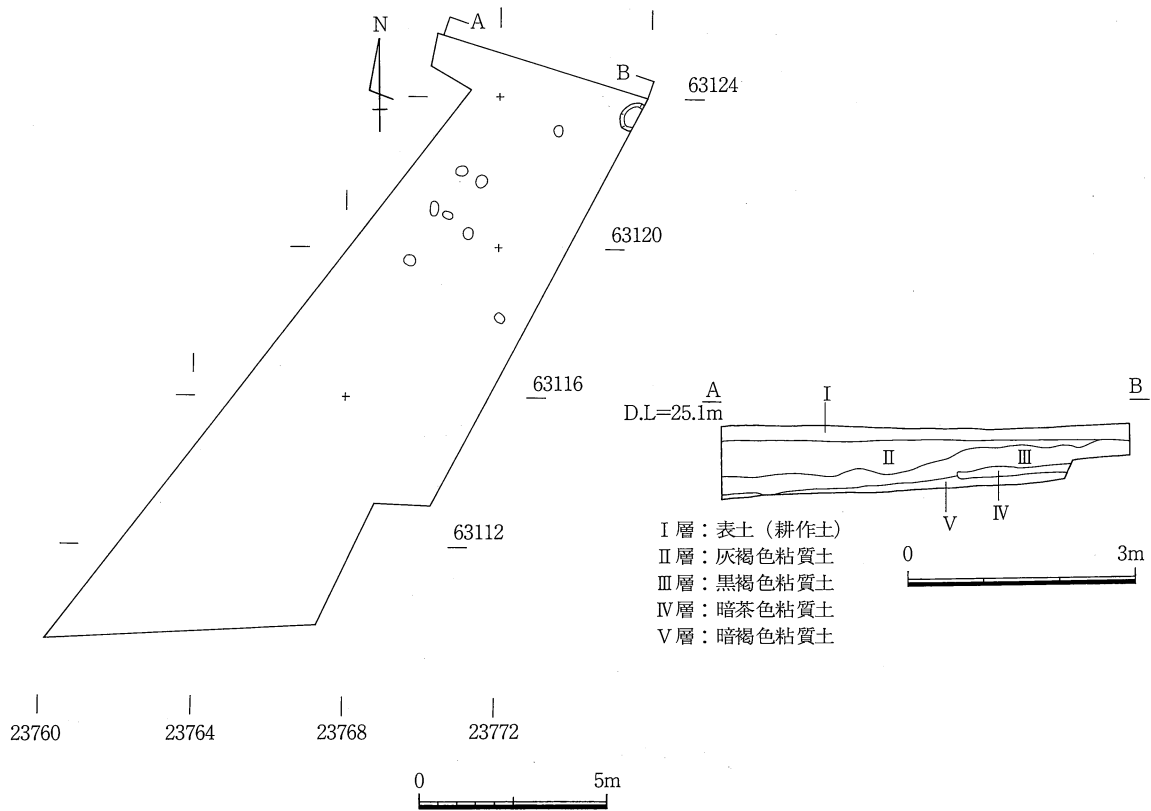


Fig.9 2区全体図・セクション図

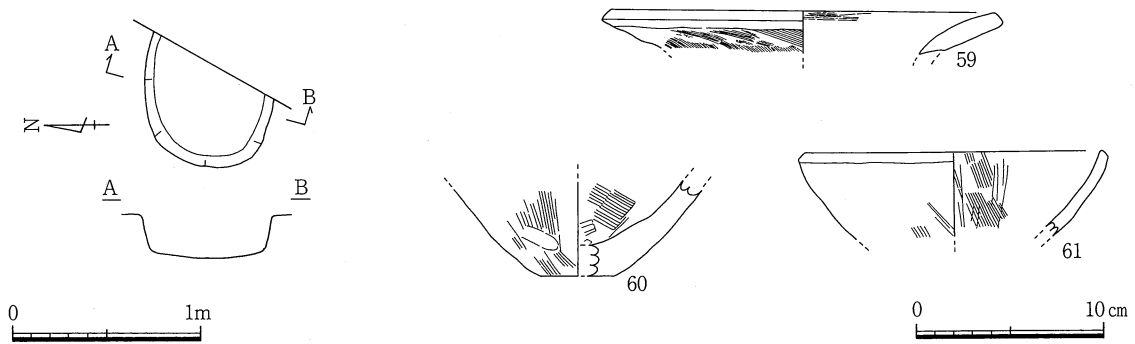


Fig.10 SK-1遺構平面図・エレベーション図・出土遺物実測図

3. 3区

(1) 基本層序

3区の層序について、調査区東壁について述べる。

IV層：暗褐色粘質土である。

III層：黒褐色粘質土である。

II層：灰褐色粘質土である。

I層：表土。耕作土である。

(2) 検出遺構と遺物

検出した遺構は、ピット27個検出したが、竪穴住居跡など検出されず、用途不明である。

遺物も検出されなかった。

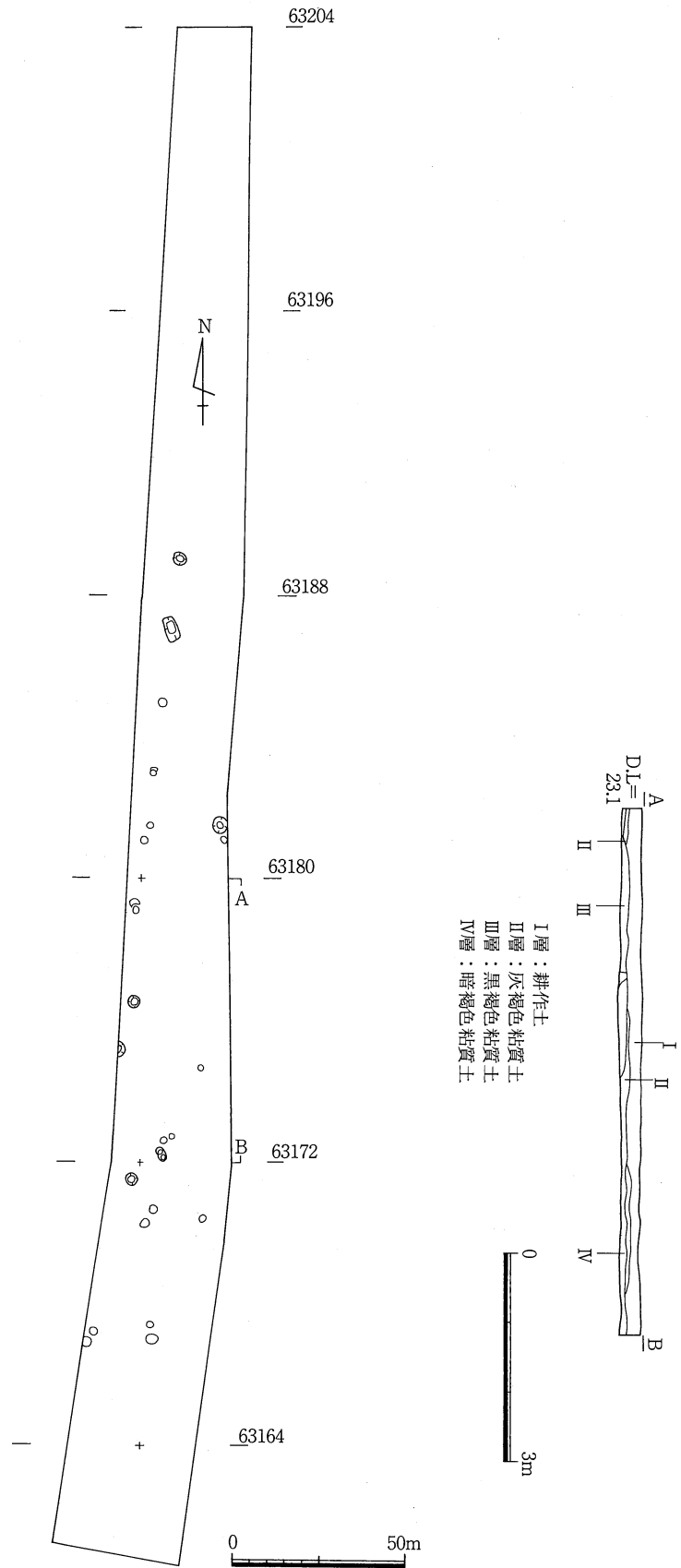


Fig.11 3区全体図・セクション図

4. 4区

(1) 基本層序

4区の層序について、調査区東壁について述べる。

Ⅶ層：黒茶色粘性土である。

Ⅵ-b層：黒茶色砂混粘土（ST-3埋土）である。層厚は28cmを測る。

Ⅵ-a層：（ST-2埋土）である。層厚は4~24cmを測る。

Ⅴ層：濃茶色砂混粘土（弥生土器包含層）である。

Ⅳ層：灰茶色粘土である。

Ⅲ層：黄茶色粘性土である。

Ⅱ層：黄灰色粘性土である。

Ⅰ層：表土。耕作土である。

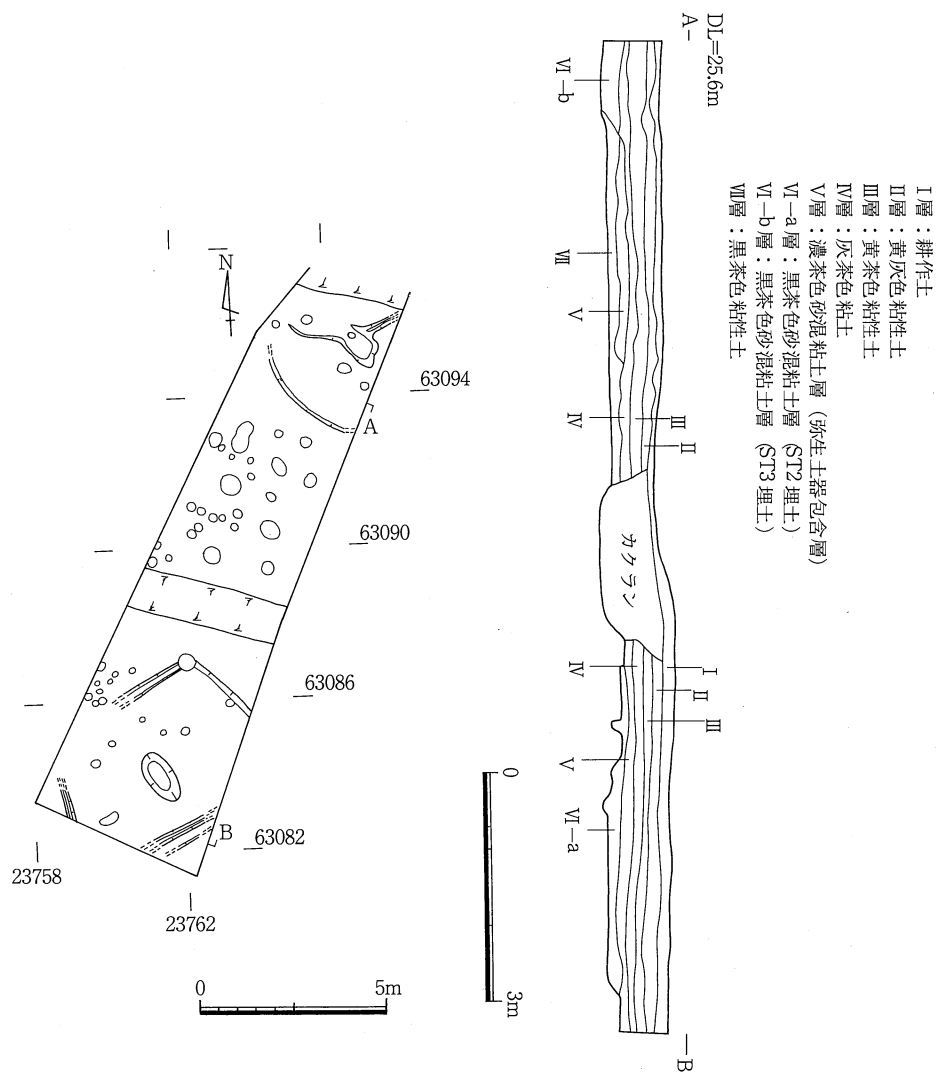


Fig.12 4区全体図・セクション図

(2) 検出遺構と遺物

ST-2

調査区の南方に位置する。壁溝の一部と中央ピットを確認し、東側では、壁の立上りが認められる。長軸5.4m短軸4.5mを測る。長方形プランを有する竪穴住居と考えられる。壁溝の幅は20cm前後、深さは5ないし10cmを測る。中央ピットは楕円形のプランを有し長軸1.6m短軸0.7m、深さは10ないし20cmで断面形態は船底状を呈する。主柱穴はP3、P13、P12が該当し、4本柱と考えられるが南東の1穴については検出できなかった。各柱穴は径20cm前後、深さは20ないし30cmであるP3とP13の柱間距離は2.5m、P12とP13のそれは1.5mである。

出土遺物は埋土中より壺口縁部 (63)、P3より甕 (64)、P17より甕 (62) が出土している。

ST-2の時期は弥生時代終末ないし古墳時代はじめである。

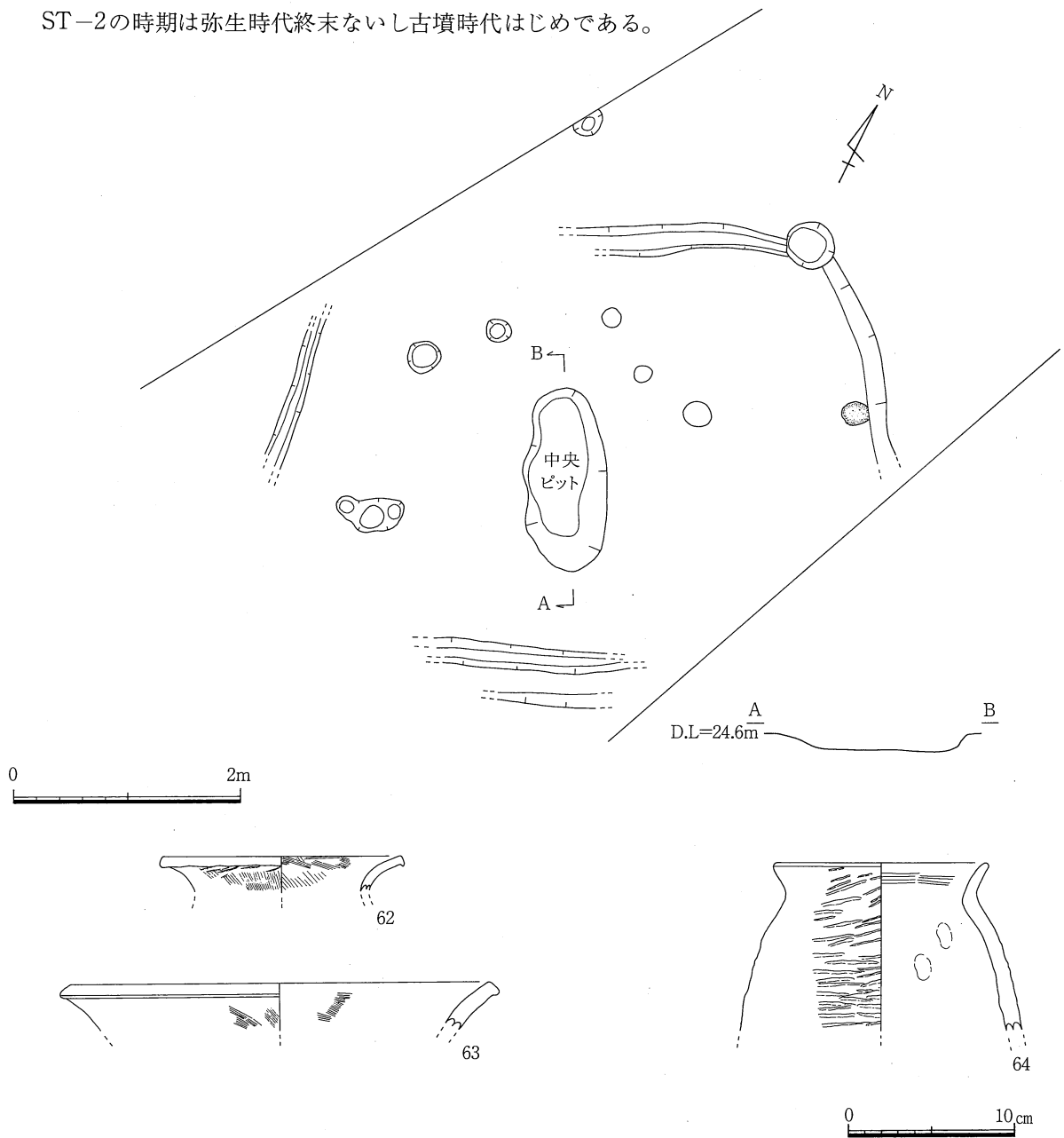


Fig.13 ST-2遺構平面図・エレベーション図・出土遺物実測図

ST-3

調査区の北方に位置する。円形プランの一部と中央ピットを確認した。北側は大きく攪乱を受けており規模については不明であるが、中央ピットと壁の立上りの位置関係から見ておよそ直径5m前後を測るものと思われる。確認できた壁の立上りは15cm前後である。中央ピットは隅丸方形プランを有し長軸1.2m短軸0.7m深さは最大15cmを測るが西側壁は削平のため確認できない。また中央ピットの北壁につながる小溝が見られる。

出土遺物は埋土中より壺 (65)、甕 (66・67)、鉢 (68~71)、叩石 (72) が出土している。この他包含層出土遺物として図示した高坏 (101) はST-3出土の可能性が極めて高い。

ST-3の時期は弥生時代終末ないし古墳時代はじめである。

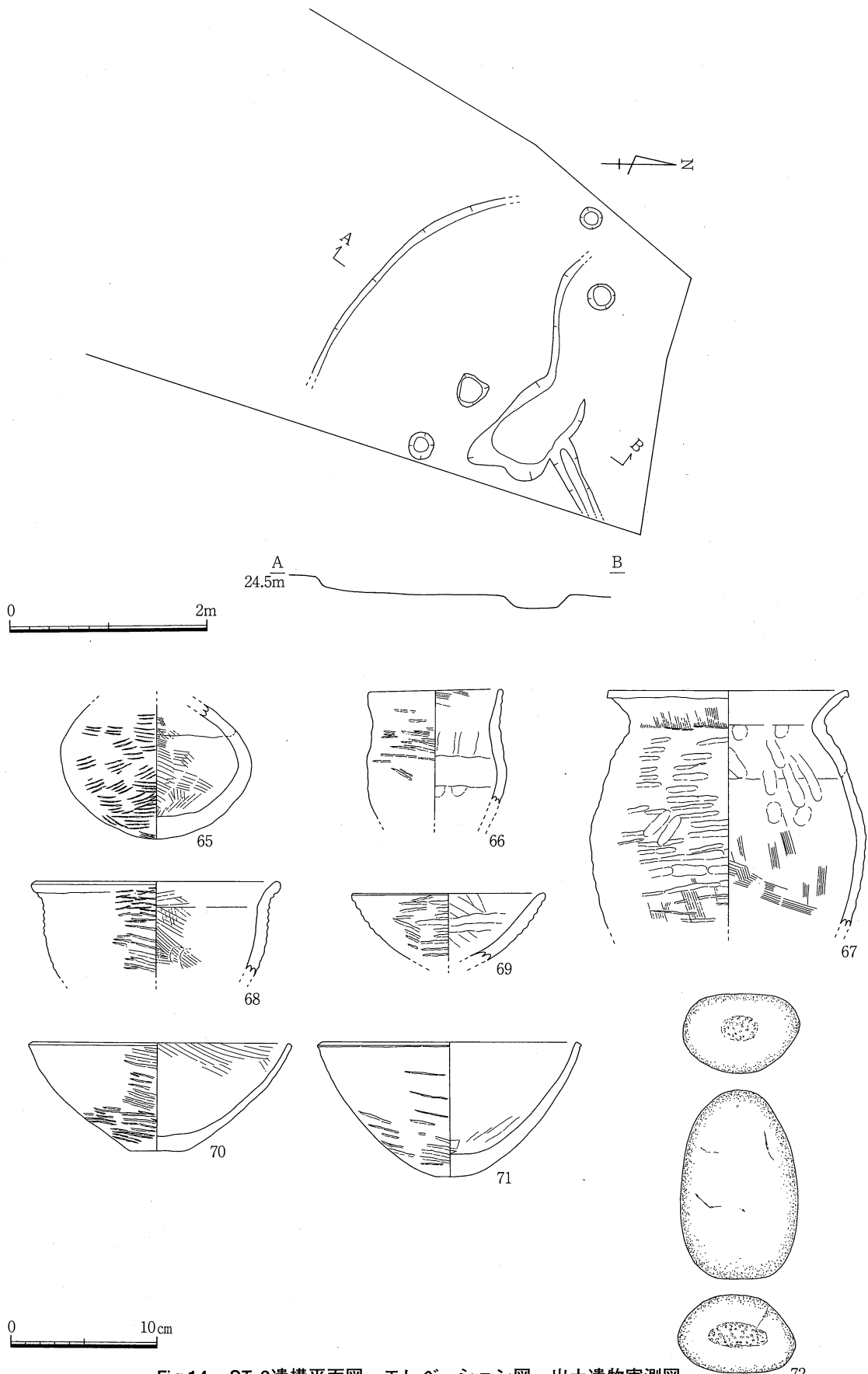


Fig.14 ST-3遺構平面図・エレベーション図・出土遺物実測図

72

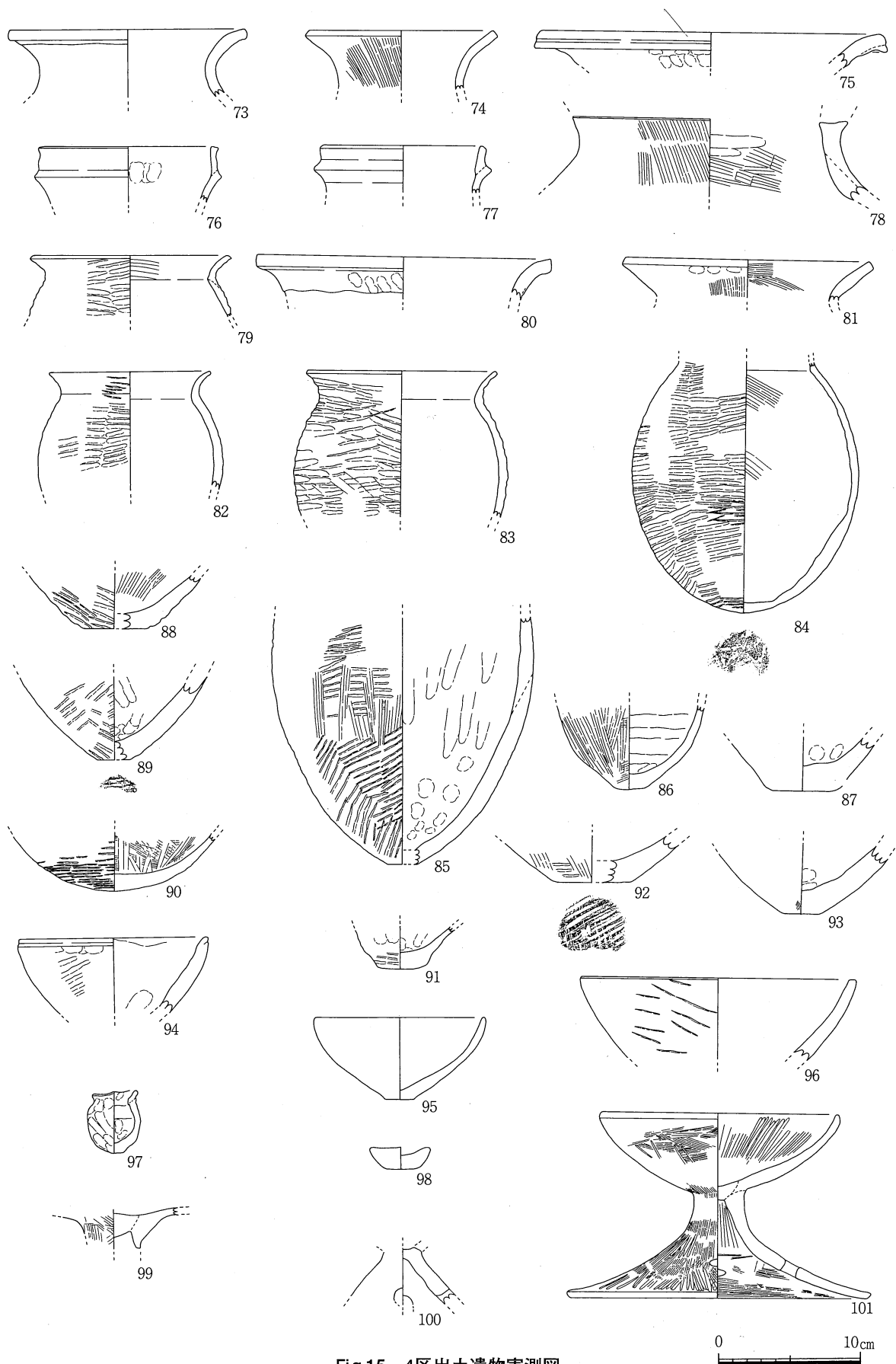


Fig.15 4区出土遺物実測図

第Ⅳ章 まとめ

幅山遺跡は、今次調査区の東側山麓部において弥生時代後期末の壺棺が発見されたことから、当該期の墓地として性格付けされていた。しかし今回の平野部の調査によって弥生時代後期末から古墳時代初頭の集落址としてその性格付けをすることができるようになった。

香我美町は、1985年に実施した下分遠崎遺跡試掘調査(1)以来、弥生時代から中世の遺跡調査が相次ぎ地域史の形成過程を考古学的に明らかにしてきた。弥生時代についてその変遷を見ると、前期末葉に下分遠崎遺跡が出現し、中期前葉まで営まれている。ここからは、掘立柱建物や土坑が検出されており、香宗川流域で最初に営まれた弥生時代の遺跡として位置付けることができる。拝原遺跡(2)からも前期末の土坑が確認されている。中期前葉は、下分遠崎遺跡の他に十万遺跡(3)から少量の土器が出土している。当該期は、小規模の集落が流域平野部に閑散と営まれていたことが考えられる。しかし中期後葉、凹線文土器の段階を迎えると平野部から遺跡が消えてしまい、丘陵上や山塊斜面部に集落移動するのである。その例としての的場遺跡や隣の野市町本村遺跡(4)を挙げることができる。当該期に見られるこのような遺跡立地の変化は、ひとり香宗川流域においてのみ認められる現象ではなく高知平野全体において認められる事象である。このような集落の断絶とでも言うべき現象と期を一にして土器型式や石器組成に大きな変化が生じることから、高知平野全体を巻き込んだ大きな社会的変動があったことが考えられる(5)が、香宗川流域においてはその変動が典型的に現れている。

後期に入ると再び平野部に集落が営まれるようになり、前半においては、十万遺跡で1棟、拝原遺跡で3棟の竪穴住居址が確認されている。以後、後期後半から末、古墳時代初頭にかけては、香宗川野中・上流域の平野部においては集落が飛躍的に多く営まれるようになる。竪穴住居について見ると十万遺跡で2棟、拝原遺跡で3棟、さらに上流部分の稗地遺跡(6)では6棟が確認されている。このような後期後半から古墳時代初頭の集落址の飛躍的な増加は全県下的に見られる現象であり、南四国における弥生時代から古墳時代への移行期の特徴として捉えることができる。幅山遺跡もこのような動向のなかで出現した集落址である。この時期に営まれた香宗川流域の集落は、竪穴住居10棟前後の比較的小規模な集落址であるが、直線距離で1~2kmという近接した地点に営まれている。当該期の中小河川流域に臨む小平野には、このような小規模集落の展開が普遍的に存在しているものと考えられるが、香宗川流域はこのような集落景観を具体的に復元できる南四国唯一の地域として位置付けることができる。

註)

- 1) 高橋啓明・出原恵三『下分遠崎遺跡試掘調査概報』香我美町教育委員会 1987年
- 2) 出原恵三『拝原遺跡』香我美町教育委員会 1993年
- 3) 高橋啓明・出原恵三・吉原達生『十万遺跡発掘調査報告書』香我美町教育委員会 1988年
- 4) 坂本憲昭『野市町本村遺跡調査報告書』野市町教育委員会 1993年
- 5) 出原恵三「南四国における弥生時代中・後期集落の消長」『弥生時代の集落—中・後期を中心として—』第45回埋蔵文化財研究集会 発表要旨集 1999年
- 6) 松田知彦『稗地遺跡』香我美町教育委員会 1993年

遺物觀察表

遺物観察表1

挿図 番号	遺構番号	品種	法量 (cm)				形態・文様	調整・手法	備考
			口径	器高	胴径	底径			
1	ST-1	壺	15.8	—	—	—	口縁部。下方に拡張 口唇部に櫛描波状文	外面：タテハケ 内面：ヨコハケ+ナデ	チャートの粗粒を 含
2	〃 (中央ピット)	〃	16.0	—	—	—	口縁部。	外面：ヨコナデ、頸部タテハ ケ	内面剥離がはげし い
3	〃	〃	18.6	—	—	—	口縁部。	外面：櫛描波状文 内面：ヨコナデ	断面に粘土帯接合 痕
4	〃	〃	18.1	—	—	—		外面・内面：ヨコヘラミガキ 頸部外面：タテハケ	
5	〃	〃	9.0	—	—	—	底部から直線的に立ち 上がる。 口縁外面に沈線	外面：ハケ+ヘラミガキ 内面：ヨコハケ・ヨコナデ	チャートの小レキ を多く含
6	〃	〃	19.2	—	—	—	口縁部。 口縁端上下に拡張して いる。	口縁部端上下・口唇部：ヨコ ナデ	チャートの粗粒を 含
7	〃	〃	17.6	—	—	—	口唇部は丸みを帯びる	外面・内面：右下りハケ 胴外面：叩き	チャートの小レキ 粗粒を含
8	〃	甕	14.8	—	—	—	口唇部面取り	外面：口縁部叩き 内面：右下りハケ	赤色風化レキ、チ ャート粗粒砂含
9	〃	〃	14.0	—	—	—	口唇部面取り	外面：口縁部タテハケ、胴部 叩き 内面：口縁部ヨコハケ+ナデ胴部ナデ	チャートの小レキ 粗粒砂含
10	〃	〃	14.0	—	—	—		外面：叩き、口縁部叩き出し 内面：口縁部ヨコハケ	外面に煤け有
11	〃	〃	20.7	—	—	—	口唇部面取り	外面：タテハケ 内面：ヨコハケ	チャートの小レキ 含
12	〃	〃	15.8	—	—	—		外面：叩き、口縁部叩き出し 内面：口縁部右下りのハケ	赤色風化レキの粗 粒を含
13	〃	〃	12.0	—	—	—	口唇部面取り	外面：叩き、口縁部叩き出し 内面：ヨコハケ	外面に煤け有
14	〃	〃	17.4	—	—	—		外面：叩き+タテハケ 内面：ナデで叩きを消す	外面に煤け有
15	〃	壺	17.4	—	—	—		外面：口縁部付近ヨコナデ、 下部タテハケ 内面：右下りハケ+ヨコハケ	チャートの小レキ を多く含
16	〃	甕	13.2	—	—	—	口唇部面取り	外面：口縁部右下りハケ 内面：ヨコハケ	
17	〃	〃						外面：右下りの叩き、口縁部叩き出し+ タテハケ 内面：胴部ハケ+ナデ	外面に黒斑
18	〃	甕						外面：太筋の叩き 内面：ハケ	チャートの小レキ を含。外面に煤け 有

遺物観察表2

挿図 番号	遺構番号	品種	法量 (cm)				形態・文様	調整・手法	備考
			口径	器高	胴径	底径			
19	ST-1	甕						外面：叩き+タテハケ 内面：指ナデ	チャート・頁岩の粗粒を少量含
20	〃	〃	11.0	11.5	-	-	平底	外面：叩き+ナデ、口縁部ヨコナデ 内面：ハケ、胴部上半ハケ、下半ナデ	チャートの粗粒を含
21	〃	〃	22.5	-	-			外面：口縁部まで右下りの叩き	内面器表の剥離が激しい 外面に黒斑・煤け有
22	〃	〃	13.4	16.6	-	-	平底	外面：叩き、下部1/3は水平 上部右上がりの叩き	チャートの粗粒砂を含
23	〃	〃						外面：叩き+タテハケ 内面：下半タテハケ+指ナデ上半ヨコハケ	外面激しく煤け。 チャート赤色風化レキの粗粒を含
24	ST-1 (壁溝外)	壺棺	-	24.4	-	-	丸底	外面：叩き+ハケ 内面：上半右下りハケ、下半ナデ	チャートの小レキを含 ST1を切る可能性大
25	〃	甕	16.6	-	-	-		外面：上半右下り・中位水平の叩き +タテハケ、口縁部タテハケ 内面：上胴部ヨコハケ、以下タテ指ナデ、口縁部ヨコハケ	チャートの小レキ 細粗粒砂含
26	〃	〃						外面：叩き+タテハケ 内面：タテハケ+ナデ	チャートの粗粒砂を少量含
27	〃	〃	-	-	-	3.4		外面：下半右上がり、上半右下がりの叩き 内面：指ナデ	チャートの小レキ粗粒砂を多く含
28	〃	〃	-	-	-	4.5	平底	外面：叩き 内面：ナデ	チャートの小レキを含
29	〃	〃	-	-	-	4.4	平底	外面：叩き+タテハケ 内面：ヘラケヅリ (上→下)	チャート・頁岩の小レキ雲母細粒砂を含 外底に黒斑、被熱赤変
30	〃	〃	-	6.8	-	3.0	平底	外面：叩き 内面：指ナデ	チャートの小レキ粗粒砂を多く含
31	〃	〃	-	-	-	3.0	平底	外面：叩き+ハケ 内面：指ナデ	チャートの小レキ粗粒砂を多く含。 外面の一部煤け
32	〃	鉢	10.2	-	6.0	2.0		外面：ナデ 内面：右上がりのハケ	チャートの粗粒を含
33	〃	〃	10.4	6.2	-	-		外面：ナデ 内面：右下りのハケ	チャートの粗粒を含
34	〃	〃	12.0	-	-	-		外面：叩き+右下りハケ 内面：ナデ、ヘラミガキ	外面に大きな黒斑
35	〃	〃	10.1	6.5	-	1.8		外面：ナデ 内面：口縁部、底部付近にハケ 外底に指圧痕有	チャートの小レキ粗粒砂を含
36	〃	〃	13.6	5.7	-	-		外面・内面：器おもての荒れがひどい	チャートの小レキを含 外面体部～底に大きな黒斑

遺物観察表3

挿図 番号	遺構番号	品種	法量 (cm)				形態・文様	調整・手法	備考
			口径	器高	胴径	底径			
37	〃	〃					外面：ナデ 内面：ハケ+ナデ	チャートの小レキ を含	
38	〃	〃	12.6	6.2	—	—	尖底 外面：ナデ 内面：木理の荒い原体による ハケ	チャートの小レキ を含	
39	〃	〃	18.5	6.5	—	—	尖底風 外面：ハケ 内面：ハケ、底部付近ナデ	チャートの小レキ を含	
40	〃	〃	15.5	6.7	—	—	外面：ナデ、ヒビ割れ状の亀 裂が走る。 内面：タテハケ	チャートの小レキ を含	
41	〃	〃	13.8	—	—	—	外面：叩き+ナデ 内面：ハケ	チャートの小レキ を含	
42	〃	〃	18.4	—	—	—	外面：叩き 内面：ヨコハケ+タテハケ	チャートの小レキ を含 接合部で剥離	
43	〃	〃	15.4	8.4	—	—	丸底 外面：叩き、底部に指頭圧痕 内面：ナデ+指ナデ	チャートの粗粒砂 を含む	
44	〃	〃	14.4	5.7	—	—	平底 外面：叩き 内面：ナデ	チャートの小レキ を含	
45	〃	〃	18.0	4.5	—	—	口縁部内面に沈線 外面・内面：右下りのハケ、口縁 部にヨコナデ内面部分 的にヘラミガキ	チャートの粗粒砂 を含	
46	〃	〃	22.0	10.5	—	—	丸底 口唇部面取り 外面：右下りの叩き 内面：右下りのハケ	チャート、赤色風 化レキの小レキを 含	
47	〃	〃	24.8	—	—	—	外面：叩き+ナデ 内面：右下りハケ+ヘラミガキ	チャートの小レキ を少量含	
48	〃	〃	22.8	—	—	—	外面：ヨコナデ 内面：ヘラミガキ	チャートの小レキ 粗粒砂を含	
49	〃 (中央ビット)	〃	26.8	—	—	—	口唇部面取り 外面：叩き 内面：ヘラミガキ	チャートの細粗粒 砂を含む	
50	〃	〃	—	9.3	—	—	丸底 外面：叩き 内面：ハケ	底部に大きな黒斑	
51	〃	〃					外面：ハケ 内面：クモノス状のハケ	下胴部に黒斑有	
52	〃	〃	—	2.8	—	2.8	外面：ナデ、外底付近ヨコハ ケ 内面：タテハケ	チャートの小レキ を含	
53	〃	〃					外面・内面：ハケ	チャート、赤色風 化レキを含	
54	ST-1	甕	5.8	—	—	—	外面：ナデ 内面：指頭圧痕	チャートの小レキ を多く含	

遺物観察表4

挿図 番号	遺構番号	品種	法量 (cm)				形態・文様	調整・手法	備考
			口径	器高	胴径	底径			
55	〃	打製 石包丁	全長 7.6	全幅 5.0	全厚 1.6	重量 70g	両端に抉りあり		砂岩
56	〃	すり石	全長 10.3	全幅 8.5	全厚 5.0	重量 610g	両主面中央部に水銀朱 付着		砂岩
57	〃	叩石	全長 12.5	全幅 10.3	全厚 6.0	重量 1,119g			砂岩
58	〃	すり石	全長 10.6	全幅 9.4	全厚 4.4	重量 580g			砂岩
59	SK-1	壺	20.3	—	—	—	口唇部面取り	外面：右下りハケ 内面：ヨコハケ	チャートの小レキ 赤色風化レキを含
60	〃	甕	—	5.1	—	4.0	平底	外面：叩き+タテハケ 内面：ハケ	チャートの小レキ を多く含
61	〃	鉢	15.8	4.5	—	—	口唇部面取り	外面・内面：下半タテハケ	砂粒をほとんど含 まない
62	ST-2 (ピット17)	壺	14.2	—	—	—		外面：叩き+タテハケ 内面：右下りハケ	チャート他の細粗 粒を含む
63	〃 (ピット16)	〃	25.0	—	—	—	口唇部面取り 下方にやや拡張	外面・内面：ハケ	チャート、風化レ キの小レキを含
64	〃 (ピット3)	甕					口縁部叩き出し	外面叩き 内面：ナデ、口縁部ヨコハケ	チャートの小レキ を含
65	ST-3 (埋土)	壺					丸底	外面：叩き+ハケ 内面：ハケ 内面上胴部に接合痕有	チャートの小レキ を多く含
66	〃 (〃)	甕	9.0	—	9.4	—		外面：叩き+ナデ 内面：胴部ナデ、口縁部右下 りハケ	チャートの小レキ を含 胴部中位に黒斑
67	〃 (〃)	〃	16.2	16.1	—	—	口唇部面取り	外面：口縁部タテハケ、胴部 水平方向叩き 内面：ハケ+ナデ	胴部外面中位以下 煤け チャートの小レキを含
68	〃 (〃)	鉢	16.4		—	—		外面：叩き 内面：右下りハケ	赤色風化レキの粗 粒を多く含
69	〃 (〃)	〃	13.0	—	—	—		外面：叩き 内面：ハケ+ナデ	チャートの小レキ を多く含
70	〃 (〃)	〃	17.5	7.4	—	3.8	口唇部面取り	外面：叩き 内面：右下りハケ	チャートの小レキ を含
71	〃 (〃)	〃	17.3	9.2	—	—	丸底	外面：叩き+ナデ 内面：ナデ	チャートの小レキ を含
72	4区 (Ⅱ層)	叩石	全長 13.0	全幅 7.9	全厚 5.3	重量 800g			砂岩 両端に使用痕有

遺物観察表5

挿図 番号	遺構番号	品種	法量 (cm)				形態・文様	調整・手法	備考
			口径	器高	胴径	底径			
73	〃 (包含層)	壺	16.4	—	—	—	口唇部面取り	外面・内面：ナデ	チャートの小レキ を含
74	〃 (II層)	〃	12.9	—	—	—	口唇部面取り	外面：タテハケ 内面：右下りのハケ+ナデ	チャートの小レキ を多く含
75	〃 (包含層)	〃	23.8	—	—	—	口唇部は巾広い面をな し、下垂する。	外面：指頭圧痕顕著 口縁部貼付	風化レキの粗粒を 多く含
76	〃 (包含層)	〃	11.7	—	—	—		外面・内面：ヨコナデ	頁岩、風化レキの 小レキ、細粗粒砂 を含
77	〃 (包含層)	〃	11.0	—	—	—	口唇部面取り	内傾接合により段を生ず	チャートの粗粒、 赤色風化レキを多 く含
78	〃 (II層)	〃	19.0	5.4	—	—		外面：頸部タテハケ 内面：右下りハケ	チャートの小レキ を含
79	〃 (II層)	甕	13.4	—	—	—	口唇部面取り 口縁部叩出し	外面：胴部水平方向叩き	頁岩、チャートの 小レキを含
80	〃 (包含層)	壺	20.4	—	—	—	口唇部面取り 口縁部粘土帯貼付		チャート、赤色風 化レキの粗粒を多 く含
81	〃 (〃)	甕	17.0	—	—	—	口唇部面取り	外面：タテハケ 内面：ヨコ及び右下りハケ	チャートの小レキ を多く含
82	〃 (〃)	〃	11.0	—	—	—	口縁部叩出し	外面：口縁部左下り、胴部水 平の叩き	
83	〃 (II層)	〃	13.0	—	—	—	口縁部叩出し	外面：叩き	外面煤有
84	〃 (包含層)	〃	—	—	15.8	—	丸底	外面：下方1/3右上り、それよ り上水平の叩き 内面：ハケ+ナデ	チャート、頁岩の 小レキを含
85	〃 (〃)	〃	—	17.4	—	—	平底	外面：上半水平、下半右上り の叩き 内面：指ナデ	チャートの小レキ を多く含
86	〃 (〃)	鉢	—	—	—	2.2		外面：タテハケ 内面：ナデ	チャートの小レキ を多く含
87	〃 (II層)	壺	—	—	—	5.0		外面・内面：調整不明	チャート、赤色風 化レキの粗粒砂を 含
88	〃 (〃)	甕	—	—	—	4.4		外面：叩き 内面：ハケ	チャート、砂岩の 粗粒を含 内面煤有
89	〃 (〃)	〃	—	—	—	2.2		外面：叩き+ハケ、底部叩き 内面：ナデ	チャート、頁岩の 小レキを含 底部~下胴部に黒斑
90	4区 (VI層)	鉢	—	—	—	0.8	丸底	外面：水平叩き 内面：タテハケ+タテヘラミガ キ	チャートの小レキ を含 外面に大きな黒斑

遺物観察表6

挿図 番号	遺構番号	品種	法量 (cm)				形態・文様	調整・手法	備考
			口径	器高	胴径	底径			
91	〃 (Ⅱ層)	甕	-	-	-	3.2		外面・内面：器表の荒れが激しい	チャート、風化レキの小レキを含
92	〃 (包含層)	〃	-	-	-	5.2		外面：叩き+タテハケ	チャートの小レキ 他を含
93	〃 (〃)	〃	-	-	-	2.2		外面・内面：器表の荒れが激しい	チャートの小レキ 石英粗粒砂を含 外面被熱赤変
94	〃 (Ⅱ層)	鉢	13.2	-	-	-		外面：右下りの叩き+ナデ	チャートの小レキ を多く含
95	〃 (〃)	〃	11.8	5.7	-	-	器壁が薄い	外面・内面：ナデ	チャートの粗粒砂を含 外面ひび割れ状の 亀裂が入る
96	〃 (Ⅵ層)	〃	19.0	-	-	-	口唇部面取り	外面：右下り叩き+ナデ 内面：ナデ	チャートの小レキ を含
97	〃 (包含層)	手づく ね土器	3.0	4.3	-	-			チャートの小レキを含 外底に黒斑 外面煤有
98	〃 (〃)	高坏	-	1.5	-	-	充填粘土		チャートの小レキ 他石英、雲母を多 く含
99	〃 (〃)	〃						外面：ハケ 内面：ナデ	チャートの小レキ 長石細粒砂を含
100	〃 (〃)	〃	-	4.0	-	-	径1.1cmの円孔有		チャートの小レキ を含
101	〃 (Ⅰ層)	〃	16.5	13.9	-	20.7	端部：丸みをもつ 径1cmの円孔4ヶ	杯部口縁部：ヨコナデ 外面：ハケ+一部ヘラミガキ 内面：タテヘラミガキ 脚部外面：ハケ+タテヘラミガキ 内面：ヨコハケ	チャートの粗細粒 砂を含

写真図版



1区調査前 (北北東から)



2区調査前 (南から)

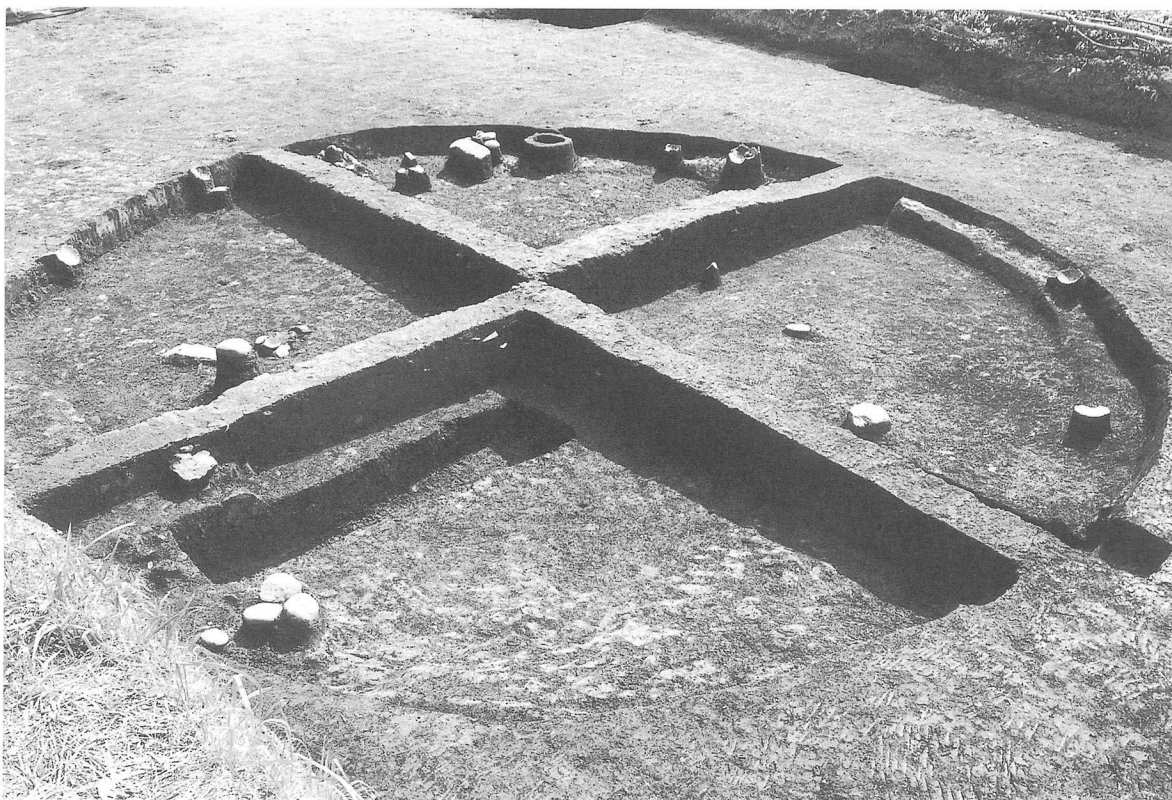
PL.2



3区調査前（北北東から）



4区調査前（北東から）



ST-1 (北東から)

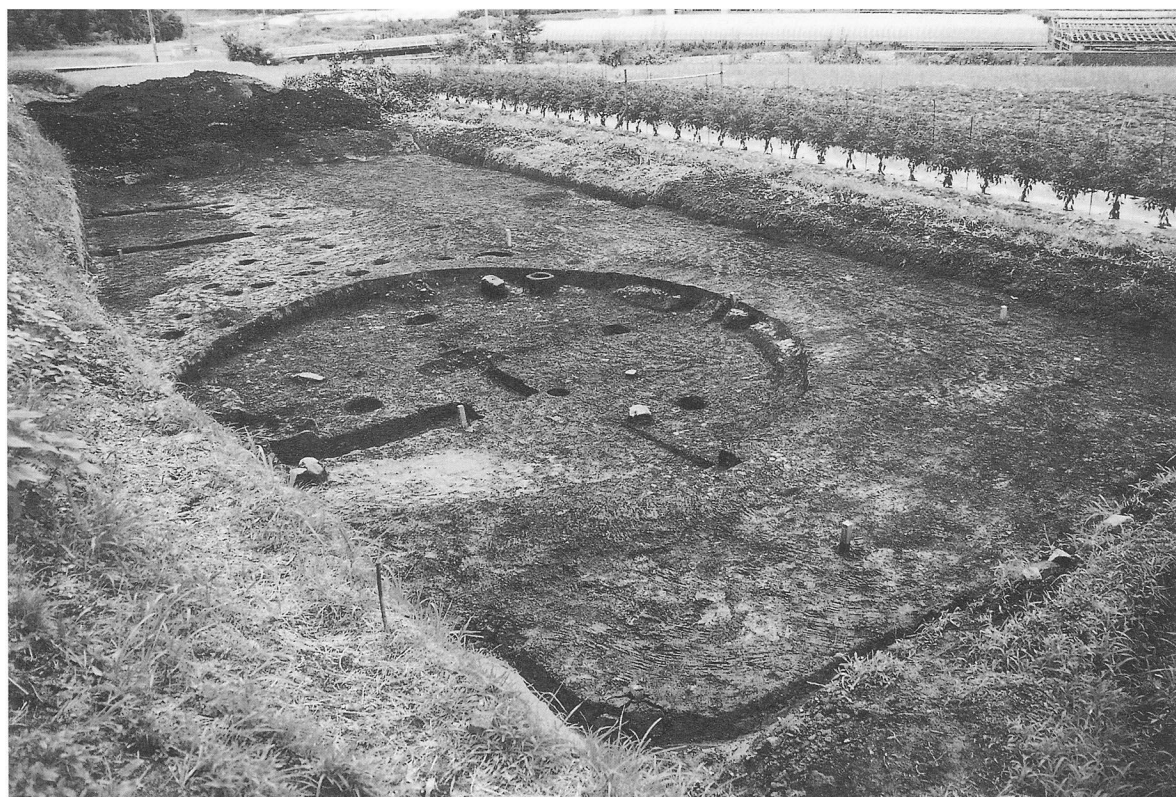


ST-1完掘状況 (南から)

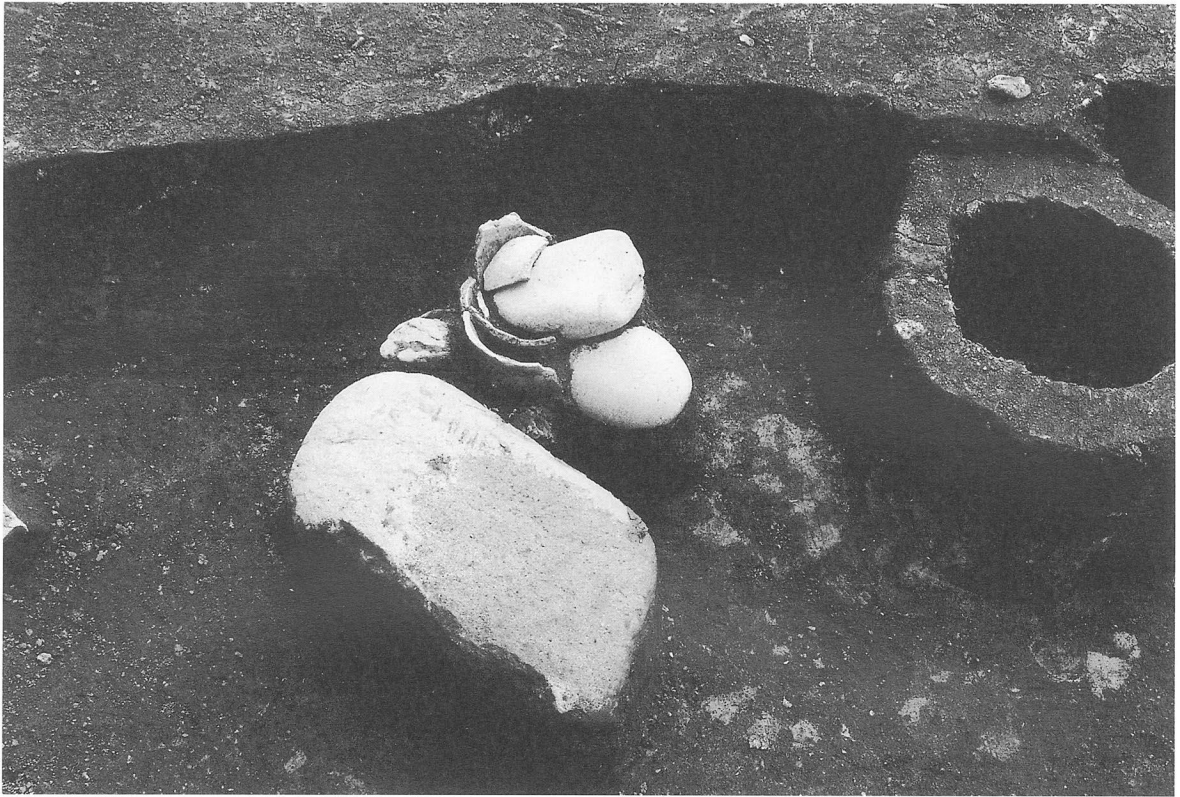
PL.4



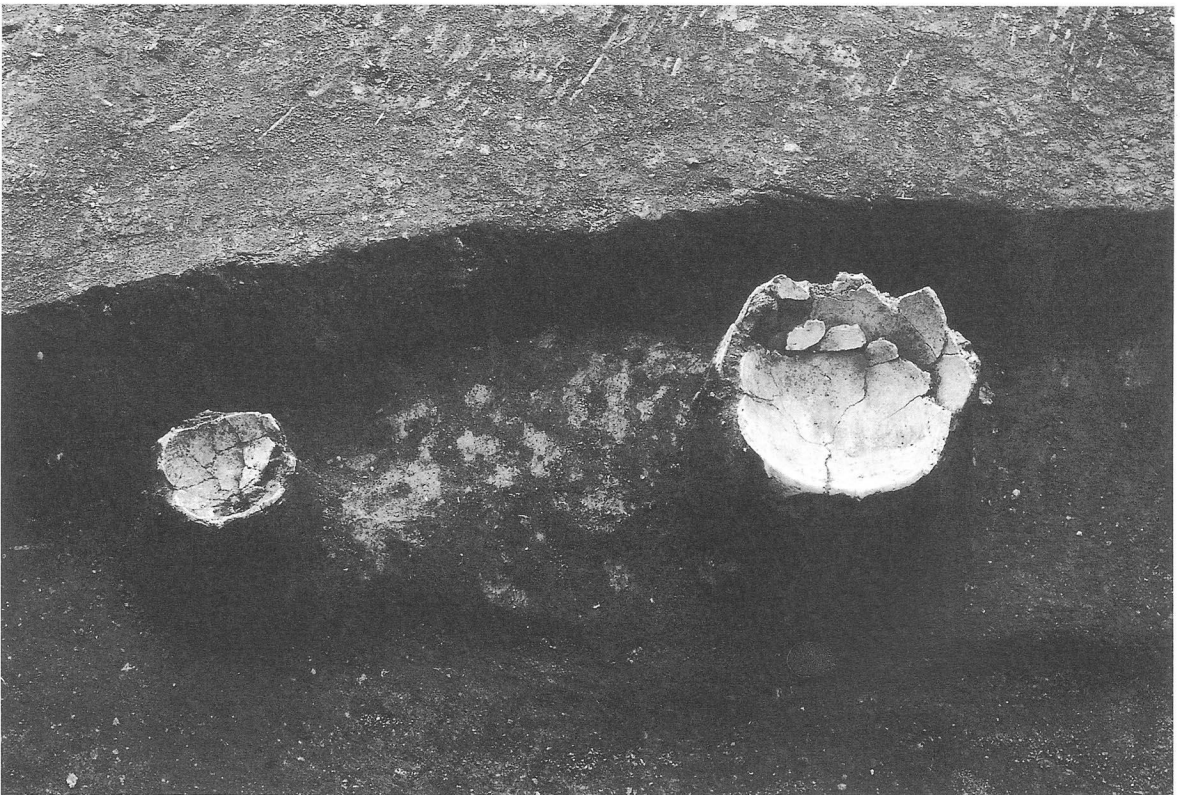
ST-1完掘状況（北西から）



1区完掘状況（北東から）



ST-1 遺物出土状況



同 上

PL6



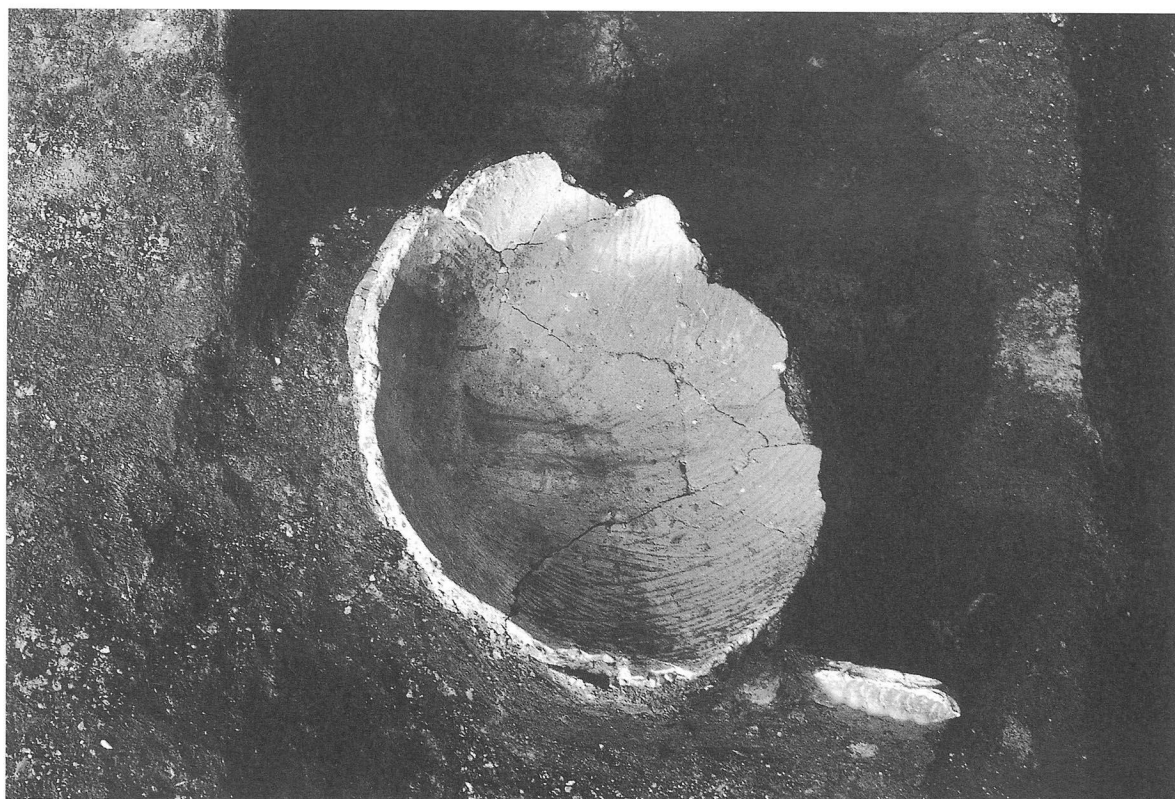
ST-1遺物出土状況



同 上



ST-1遺物出土状況



同上

PL8



壺棺出土状況



同 上



2区完掘状況（北から）



SK-1完掘状況

PL10



3区完掘状況（南東から）



同 上（南から）



4区完掘状況（南から）



同 上（北から）

PL12



ST-2完掘状況（東から）



同 上（南から）



ST-2中央ピット完掘状況



ST-2セクションベルト (北北東から)

PL14



4区東壁セクション (西から)



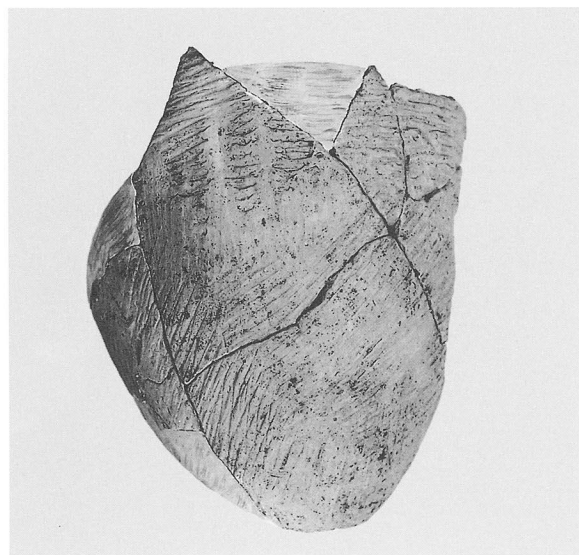
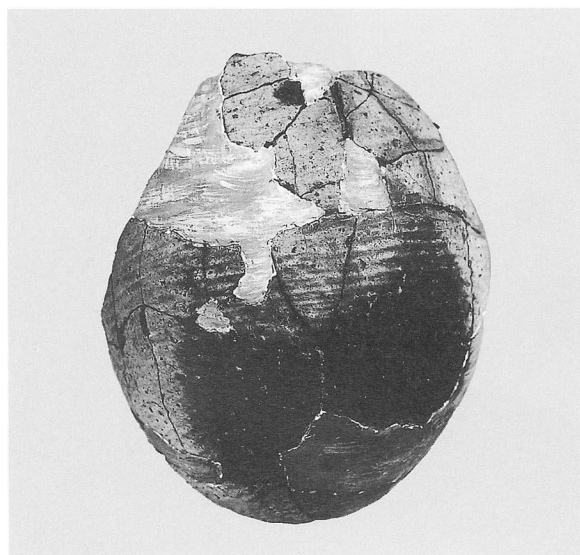
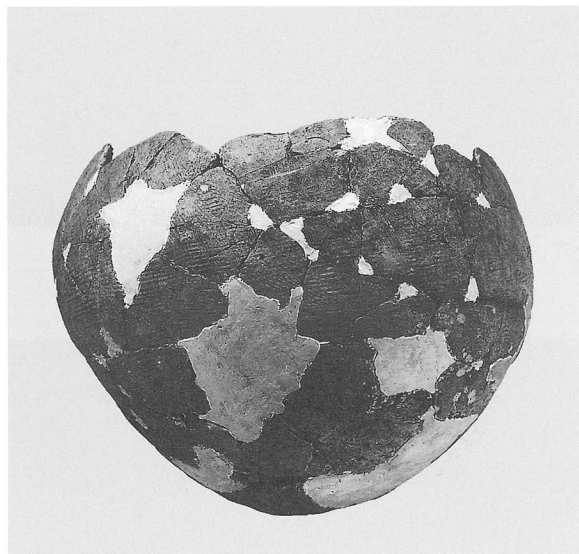
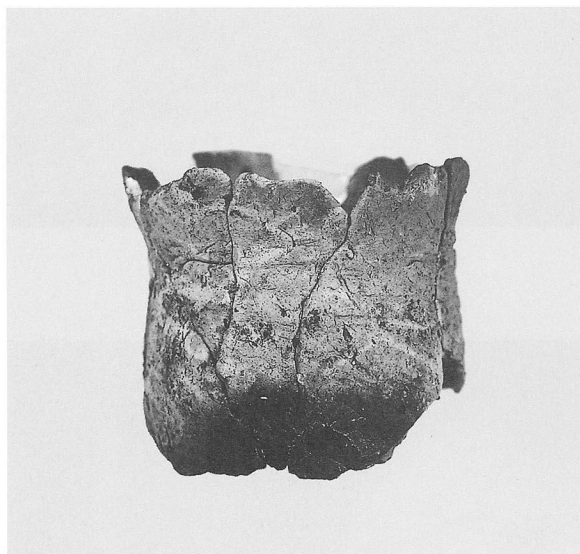
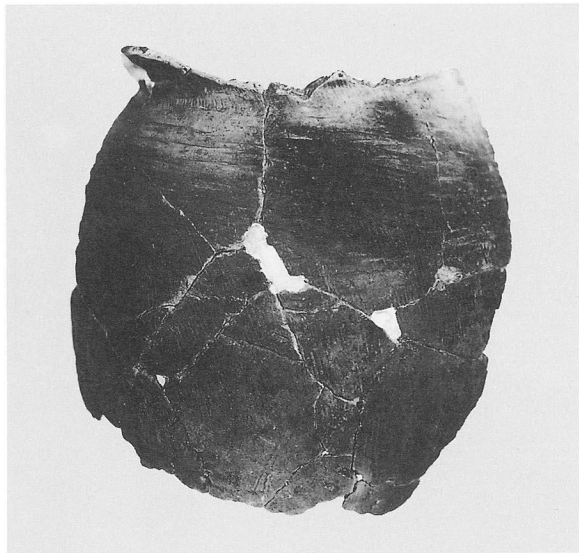
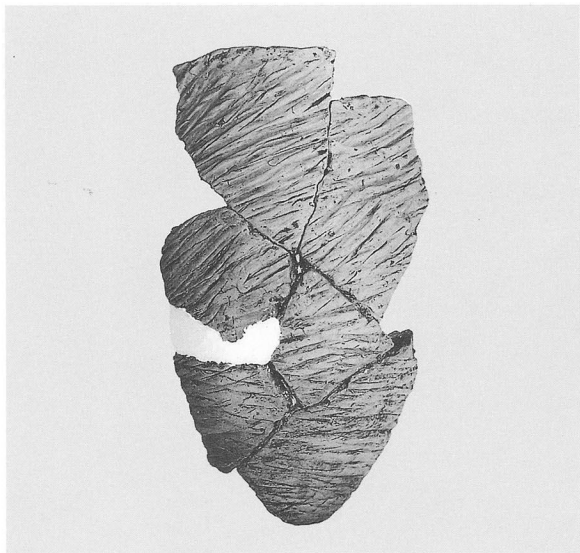
同上 (同上)



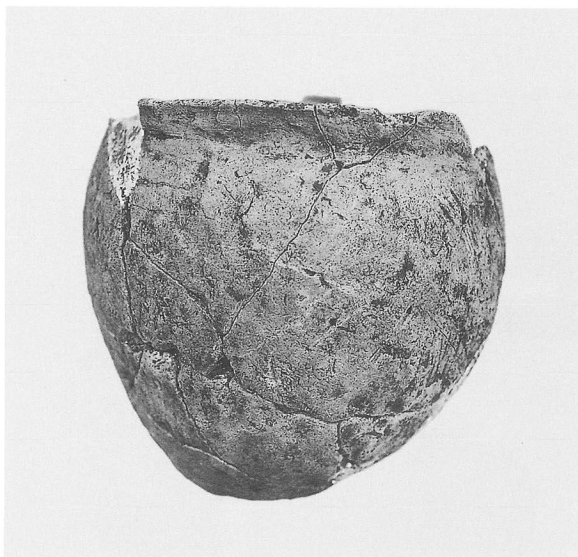
ST-3完掘状況（北から）



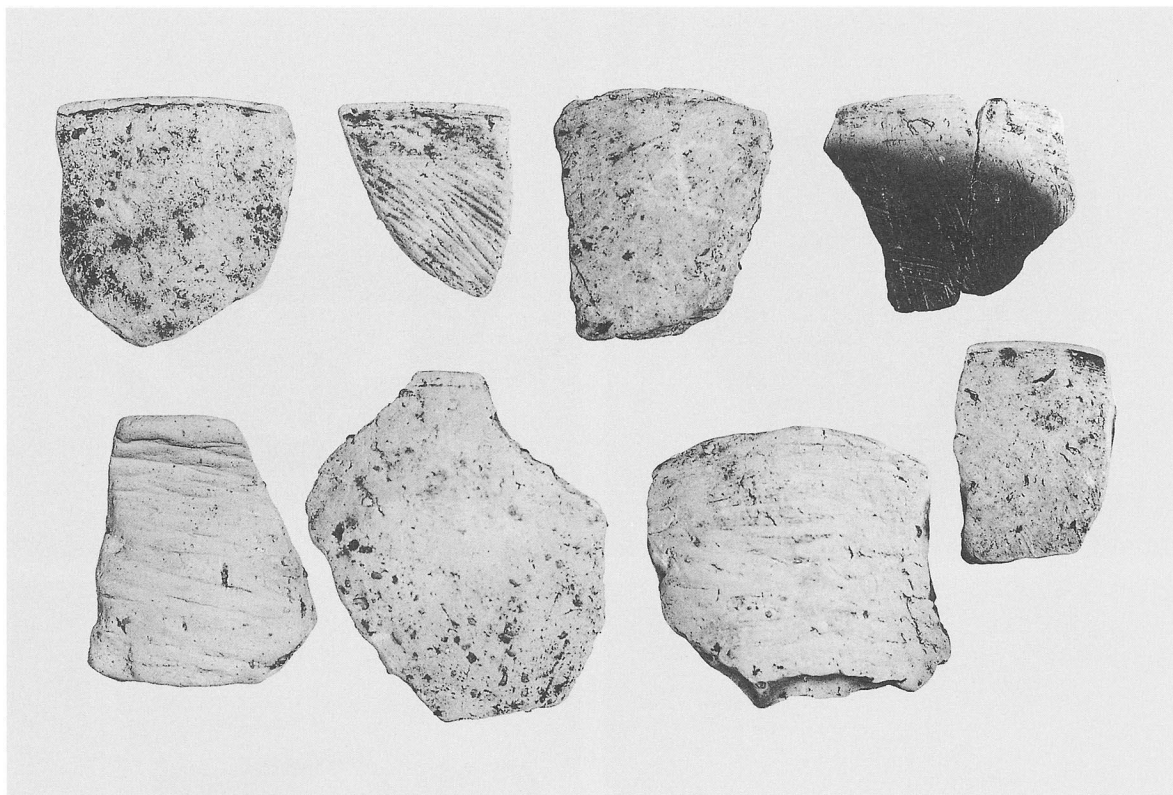
ST-3遺物出土状況



ST-1・壺棺、ST-3出土土器



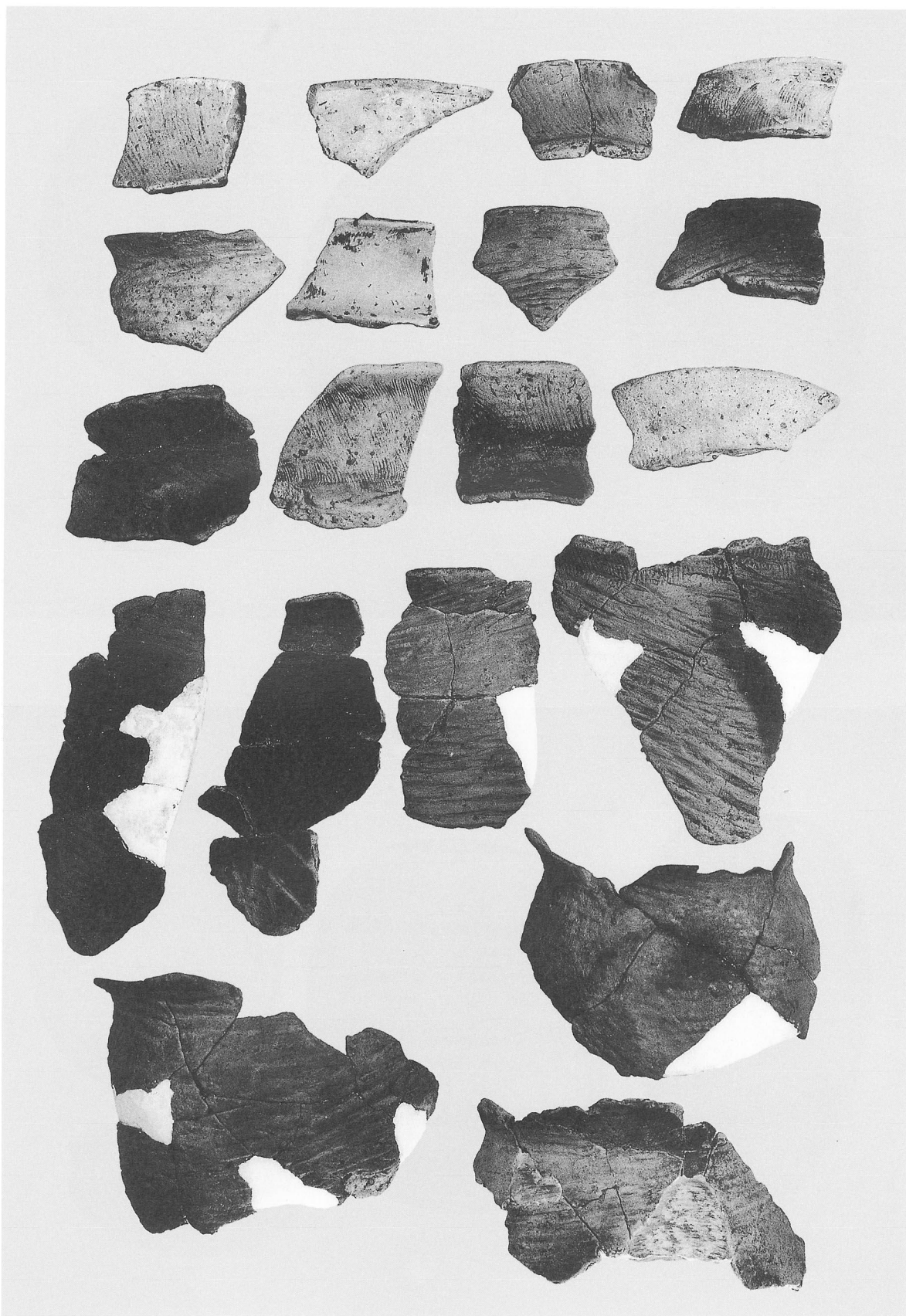
ST-1、ST-3、4区包含層出土土器



ST-1、SK-1、ST-2、ST-3出土の鉢



ST-1、ST-3出土の壺



ST-1、ST-2、ST-3出土の甕

PL.20



石器



同上裏面

報告書抄録

ふりがな		はばやまいせき						
書名		幅山遺跡						
副書名		県営山南地区基幹農道整備事業に伴う発掘調査報告書						
巻次		1						
シリーズ名		香我美町埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号		第8集						
編著者名		岡本 修						
編集機関		香我美町教育委員会		発行年月日		1999年3月29日		
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 〃 〃 〃	東経 〃 〃 〃	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はばやまいせき 幅山遺跡	〒781-5332	39322	180039	33° 34′ 10″	133° 45′ 24″	1998.08.17 ～ 1998.10.06	(1区～4区) 約520m ²	県営山南地区基幹農道整備事業に伴う発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
幅山遺跡	遺物包含層 散布地	弥生	竪穴住居跡 土坑 柱穴	弥生土器 壺棺 壺 甕 鉢 高坏 叩石 石斧		弥生時代後期終末の 性格を持つ		

香我美町埋蔵文化財発掘調査報告書第8集

幅 山 遺 跡

— 県営山南地区基幹農道整備事業に伴う発掘調査報告書 —

1999年3月

編集 香我美町教育委員会

発行 高知県香美郡香我美町徳王子2220-1
Tel. 0887-55-2110

印刷 共和印刷株式会社